

## 7章 鉄骨工事

### 8節 錆止め塗装

#### 7. 8. 1 適用範囲

- (a) この節は、鉄骨の錆止め塗装に適用する。
- (b) この節に規定する事項以外は、18章[塗装工事]による。

#### 7. 8. 2 工場塗装の範囲

- (a) 次の部分は、塗装しない。
  - (1) コンクリートに密着する部分及び埋め込まれる部分
  - (2) 高力ボルト摩擦接合部の摩擦面
  - (3) 工事現場溶接を行う部分の両側それぞれ 100 mm程度の範囲及び超音波探傷試験に支障を及ぼす範囲
  - (4) 密閉される閉鎖形断面の内面
  - (5) ピン、ローラー等密着する部分及び回転又は摺動面で削り仕上げした部分
  - (6) 組立によって肌合せとなる部分
  - (7) 耐火被覆材の接着する面。ただし、7. 8. 3 (2)を除く。
- (b) 工事現場溶接を行う部分でも、溶接するまでに著しい錆を発生するおそれのある場合は、溶接に無害な適切な防錆処置を行う。

#### 7. 8. 3 塗料の種別

次の部分の錆止め塗料の種別は、特記による。

- (1) 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内面。ただし、錆止め塗料の種別は、特記がなければ、表18. 3. 1 [鉄鋼面錆止め塗料の種別]のA種とする。
- (2) 特記により塗装を行う場合の耐火被覆材の接着する面。

#### 7. 8. 4 工事現場塗装

18. 3. 3 [錆止め塗料塗り] (b) による錆止め塗料塗りの工事現場塗装は、次による。

- (1) 現場接合部の素地ごしらは、表18. 2. 2 [鉄鋼面の素地ごしらは]によるC種とし、工場塗装と同種の錆止め塗料を使用して塗装を施す。
- (2) 塗膜の損傷した部分は活膜を残して除去し、錆の生じた部分は手工具を用いて旧塗膜を除去し、いずれも錆止め塗料で補修する。

## 15章 左官工事

### 5節 仕上塗材仕上げ

#### 15.5.1 適用範囲

この節は、建築用仕上塗材を用いる内外装仕上工事に適用する。

#### 15.5.2 材料

##### (a) 仕上塗材

- (1) 仕上塗材は、JIS A6909（建築用仕上塗材）による。ただし、内装仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放散量は、特記による。特記がなければ、F☆☆☆☆とする。
- (2) 仕上塗材は、製造所において指定された色及びつや等に調合し、有効期限を経過したものは使用しない。  
なお、下塗材、主材及び上塗材は、同一製造所の製品とする。
- (3) 仕上塗材の種類（呼び名）、仕上げの形状及び工法は表15.5.1により、適用は特記による。
- (4) 内装薄塗材及び内装厚塗材で吸放湿性を有する塗材を用いる場合は、JIS A6909の「調湿形」の表示のあるものとし、適用は特記による。
- (5) 内装薄塗材Wをコンクリート、セメントモルタル等のアルカリ性の下地に適用する場合は、JIS A6909の「耐アルカリ性試験合格」の表示のあるものを用いる。
- (6) 内装薄塗材Wは、JIS A6909の「かび抵抗性」の表示のあるものを用いる。
- (7) 複層仕上塗材の耐候性は、特記による。特記がなければ、耐候形3種とする。
- (8) 複層仕上塗材の上塗材の種類は表15.5.2により、適用は特記による。特記がなければ、水系アクリルのつやありとする。
- (9) 増塗材は、主材基層塗りに用いる材料とする。
- (10) 特記により、防火材料の指定がある場合は、建築基準法に基づき認定を受けたものとする。

表15.5.1 仕上塗材の種類、仕上げの形状及び工法（その1）

種類	呼び名	仕上げの形状	工法 (注)5	所要量(kg/m <sup>2</sup> ) (注)6	塗り回数
薄付け仕上塗材	外装薄塗材 Si	砂壁状	吹付け	下塗材(注)1. 0.1以上	1
		ゆず肌状		主 材 1.0以上	2
		ゆず肌状	ローラー塗り	下塗材(注)1. 0.1以上	1
		さざ波状		主 材 0.6以上	1~2(注)4.
	可とう形 外装薄塗材 Si	砂壁状	吹付け	下塗材 0.1以上	1
		ゆず肌状		主 材 1.2以上	2
		ゆず肌状	ローラー塗り	下塗材 0.1以上	1
		さざ波状		主 材 1.2以上	1~2(注)4.
	外装薄塗材 E	砂壁状	吹付け	下塗材(注)1. 0.1以上	1
		ゆず肌状		主 材 1.0以上	2
		平たん状	こて塗り	下塗材(注)1. 0.1以上	1
		凹凸状		主 材 0.6以上	1~2(注)4.
ゆず肌状		ローラー塗り			
さざ波状					
着色骨材砂壁状		吹付け	下塗材(注)1. 0.1以上	1	
			主 材 1.5以上	2	
		こて塗り	下塗材(注)1. 0.1以上	1	
			主 材 0.9以上	1~2(注)4.	

	可とう形 外装薄塗材 E	砂壁状	吹付け	下塗材	0.1 以上	1
		ゆず肌状		主 材	1.2 以上	2
		平たん状 凹凸状	こて塗り	下塗材	0.1 以上	1
				主 材	1.2 以上	1~2(注)4.
			ゆず肌状 さざ波状	ローラー塗り		
	防水形 外装薄塗材 E	ゆず肌状 さざ波状	ローラー塗り	下塗材	0.1 以上	1
				増塗材	0.7 以上	1
				主材基層	1.0 以上	1~2(注)4
		凹凸状	吹付け	主材模様	0.4 以上	1
	外装薄塗材 S	砂壁状	吹付け	下塗材	0.1 以上	1
				主 材	1.0 以上	1
	内装薄塗材 C 内装薄塗材 L	凹凸状	吹付け	下塗材(注) 1.	0.1 以上	1
			主 材	0.8 以上	1~2(注)4	
平たん状 凹凸状		こて塗り				
	ゆず肌状 さざ波状	ローラー塗り				
内装薄塗材 Si 内装薄塗材 E	砂壁状じゅらく ゆず肌状	吹付け	下塗材(注) 1.	0.1 以上	1	
			主 材	0.6 以上	1~2(注)4	
	平たん状 凹凸状	こて塗り				
	ゆず肌状 さざ波状	ローラー塗り				
内装薄塗材 W	京壁状じゅらく ゆず肌状	吹付け	下塗材(注) 1.	0.1 以上	1	
			主 材	0.3 以上	1~2(注)4	
	平たん状 凹凸状	こて塗り	下塗材(注) 1.	0.1 以上	1	
			主 材	0.2 以上	1~2(注)4	

表 15. 5. 1 仕上塗材の種類、仕上げの形状及び工法 (その2)

種類	呼び名	仕上げの形状	工法	所要量(kg/m <sup>2</sup> )		塗り回数
厚付け仕上塗材	外装厚塗材 C	吹放し 凸部処理	吹付け	下塗材	0.1 以上	1
				主材基層	3.0 以上	1
				主材模様	2.0 以上	1
				上塗材(注)3.	0.3 以上	2
		平たん状 凹凸状 ひき起こし かき落とし	こて塗り	下塗材(注)1.	0.1 以上	1
				主 材	5.0 以上	1~2(注)4
				上塗材(注)3.	0.3 以上	2
	外装厚塗材 Si 外装厚塗材 E	吹放し 凸部処理	吹付け	下塗材	0.1 以上	1
				主材基層	1.5 以上	1
				主材模様	1.5 以上	1
				上塗材(注)2.	0.3 以上	2
		平たん状 凹凸状 ひき起こし	こて塗り ローラー塗り	下塗材	0.1 以上	1
			主 材	3.0 以上	1~2(注)4	
			上塗材(注)2.	0.3 以上	2	
内装厚塗材 C	吹放し 凸部処理	吹付け	下塗材	0.1 以上	1	
			主材基層	3.0 以上	1	
			主材模様	2.0 以上	1	
	平たん状 凹凸状 ひき起こし かき落とし	こて塗り	下塗材(注)1.	0.1 以上	1	
			主 材	3.5 以上	1~2(注)4	
内装厚塗材 L	平たん状 凹凸状 ひき起こし かき落とし	こて塗り	下塗材(注)1.	0.1 以上	1	
			主 材	2.5 以上	1~2(注)4	
内装厚塗材 G	平たん状 凹凸状 ひき起こし かき落とし	こて塗り	下塗材(注)1.	0.1 以上	1	
			主 材	2.5 以上	1~2(注)4	
内装厚塗材 Si 内装厚塗材 E	吹放し 凸部処理	吹付け	下塗材	0.1 以上	1	
			主材基層	1.5 以上	1	
			主材模様	1.5 以上	1	
	平たん状 凹凸状 ひき起こし	こて塗り ローラー塗り	下塗材	0.1 以上	1	
			主 材	3.0 以上	1~2(注)4	

表 15. 5. 1 仕上塗材の種類、仕上げの形状及び工法 (その3)

種類	呼び名	仕上げの形状	工法	所要量(kg/m <sup>2</sup> )		塗り回数	
複層仕上塗材 (注)7	複層塗材 CE 複層塗材 Si 複層塗材 E 複層塗材 RE	凸部処理 凹凸模様	吹付け	下塗材	0.1 以上	1	
				主材基層	0.7 以上	1	
					主材模様	0.8 以上	1
				上塗材	0.25 以上	2	
		ゆず肌状	ローラー塗り	下塗材	0.1 以上	1	
				主 材	1.0 以上	1~2(注)4	
				上塗材	0.25 以上	2	
	可とう形 複層塗材 CE	凸部処理 凹凸模様	吹付け	下塗材	0.1 以上	1	
				主材基層	1.0 以上	1~2(注)4	
				主材模様	0.5 以上	1	
			上塗材	0.25 以上	2		
	ゆず肌状	ローラー塗り	下塗材	0.1 以上	1		
			主 材	1.0 以上	1~2(注)4		
			上塗材	0.25 以上	2		
防水形複層塗材 CE 防水形複層塗材 E 防水形複層塗材 RE 防水形複層塗材 RS	凸部処理 凹凸模様	吹付け	下塗材	0.1 以上	1		
			増塗材	0.9 以上	1		
	ゆず肌状	ローラー塗り	主材基層	1.7 以上	2		
			主材模様	0.9 以上	1		
			上塗材	0.25 以上	2		
軽量骨材仕上塗材	吹付用軽量塗材	砂壁状	吹付け	下塗材	0.1 以上	1	
				主 材	厚 5 mm以上	1~2(注)4	
	こて塗用軽量塗材	平たん状	こて塗り	下塗材	0.1 以上	1	
				主 材	厚 3 mm以上	1~2(注)4	

- (注) 1. 下塗材を省略又は専用の下地調整材を用いる場合は、仕上塗材製造所の指定による。  
 2. 適用は特記による。  
 3. セメントスタッコ以外の塗材の場合は、特記による。  
 4. 塗り回数は、仕上塗材製造所の指定による。  
 5. 工法欄の吹付け、ローラー塗り及びこて塗りは、主材の塗付けに適用する。  
 6. 所要量は、被仕上塗材仕上げ面単位面積当たりの仕上塗材(希釈する前)の使用質量とする。  
 なお、表の所要量は、2回塗りの場合、2回分の所要質量を示す。  
 7. 複層仕上塗材の上塗りが、メタリックの場合の所要量及び塗り回数は、15. 5. 6 (m) (4) (i) による。

表 15. 5. 2 複層仕上塗材の上塗材の種類

樹脂 外観	アクリル系			シリ カ系	ポリウレタン系			アクリルシリコン系			ふっ素系		
	つや あり	つや なし	メタリ ック	つや なし	つや あり	つや なし	メタ リック	つや あり	つや なし	メタリ ック	つや あり	つや なし	メタリ ック
溶剤系	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
弱溶剤系	○	○	—	—	○	○	—	○	○	—	○	○	—
水系	○	○	—	○	○	○	—	○	○	—	○	○	—

凡例 ○印：選択可能 —印：選択不可

(注) つやなし及びメタリックは、可とう形複層塗材及び防水形複層塗材には適用しない。

- (b) 下地調整塗材は、JIS A 6916 (建築用下地調整塗材) による。  
 (c) 水は、15. 2. 2 (d) による。  
 (d) (a) から (c) まで以外の材料は、仕上塗材製造所の指定する製品とする。

### 15. 5. 3 施工一般

- (a) 15. 1. 3の見本塗板は、所要量又は塗厚が工程ごとに確認できるものとする。
- (b) 仕上げ工程の放置時間等は、18. 1. 4[施工一般] (h) による。
- (c) 仕上げ場所の気温が5℃以下の場合は、18. 1. 6[施工管理] (a) による。
- (d) 外部の仕上げ塗りは、降雨、多湿等により結露のおそれのある場合及び強風時には、原則として、行わない。
- (e) 仕上げに溶剤を用いる場合は、換気をよくして溶剤による中毒を起こさないようにする。
- (f) 工程ごとの所要量等の確認を、15. 5. 7により行う。
- (g) シーリング面に仕上塗材仕上げを行う場合は、シーリング材が硬化したのちに行うものとし、塗重ね適合性を確認し、必要な処理を行う。

### 15. 5. 4 下地処理

- (a) コンクリート、モルタル、プラスター下地等で、ひび割れがある場合は、必要に応じてU字形にはつり、仕上げに支障のないモルタル等で充填し、14 日程度放置する。ただし、気象条件等によりモルタル等の付着が確保できる場合には、放置期間を短縮することができる。
- (b) 外壁のコンクリート下地等で漏水のおそれのあるひび割れは、U字形にはつり、シーリング材を充填する。  
なお、シーリング材は仕上げに支障のないものとする。
- (c) モルタル下地の仕上げは表15. 5. 3により、仕上塗材の種類に応じた○印の仕上げとする。

表15. 5. 3 仕上塗材の種類に応じたモルタル下地の仕上げ

仕上塗材の種類 (呼び名)	モルタル下地の仕上げ			備考
	はけ引き	金ごて	木ごて	
外装薄塗材 Si、外装薄塗材 E、外装薄塗材 S、 内装薄塗材 Si、内装薄塗材 E、内装薄塗材 W、 外装厚塗材 Si、外装厚塗材 E、内装厚塗材 Si、 内装厚塗材 E、複層塗材 CE、複層塗材 Si、 複層塗材 E、軽量骨材仕上塗材	○	○	○	薄塗材の場合は、 金ごて又は木ごて
内装薄塗材 C、内装薄塗材 L、外装厚塗材 C、 内装厚塗材 C、内装厚塗材 L、内装厚塗材 G	○	—	○	薄塗材の場合は、 木ごて
可とう形外装薄塗材 Si、可とう形外装薄塗材 E、 防水形外装薄塗材 E、可とう形複層塗材 CE、 複層塗材 RE、 防水形複層塗材 CE、防水形複層塗材 E、 防水形複層塗材 RE、防水形複層塗材 RS	—	○	—	—

- (d) ALCパネルの場合は、次による。
  - (1) 内壁目地部の形状は、特記による。特記がなければ、V形目地付きとする。
  - (2) ALCパネル面の欠け、穴等は、ALCパネル製造所の指定する補修用モルタル（既調合のもの）で平滑にする。
- (e) 押出成形セメント板の場合は、欠け、表面の傷等を押出成形セメント板製造所の指定する補修材料で平滑にする。

### 15. 5. 5 下地調整

- (a) コンクリートの下地調整は、次による。
  - (1) 目違いは、サンダー掛け等により取り除く。
  - (2) 下地面の清掃を行う。
  - (3) 下地調整塗材 C-2 を、1～2mm程度全面に塗り付けて、平滑にする。ただし、スラブ下等の見上げ面及び厚付け仕上げ塗材仕上げ等の場合は、省略する。
  - (4) 下地の不陸調整厚さが1mm以下の場合は、(3)の下地調整塗材C-2に代えて、下地調整塗材C-1を平滑に塗り付けることができる。

- (5) 下地の不陸調整厚さが3mmを超えて10mm以下の場合は、(3)の下地調整塗材C-2に代えて、下地調整塗材CM-2を平滑に塗り付ける。
- (b) モルタル、プラスター及びPCパネルの下地調整は、次による。
- (1) 下地面の清掃を行う。
  - (2) 合成樹脂エマルジョンシーラーを全面に塗り付ける。ただし、仕上塗材の下塗材で代用できる場合は、省略することができる。
- (c) せっこうボード面及びその他のボード面下地の場合は、次による。
- (1) 表18. 2. 7 [せっこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえ]のB種とする。
  - (2) 合成樹脂エマルジョンシーラーを全面に塗りつける。
- (d) ALCパネル面の下地調整は、次による。
- (1) 下地面の清掃を行う。
  - (2) 合成樹脂エマルジョンシーラーを全面に塗り付ける。ただし下地調整塗材Eで代用する場合は、省略することができる。
  - (3) 屋外は、仕上塗材製造所の仕様により下地調整塗材C-1又は下地調整塗材Eを全面に塗り付けて、平滑にする。ただし、外装薄塗材S及び防水形複層塗材RS仕上げの場合は、下地調整塗材C-2を全面に塗り付けて、平滑にする。
- (e) 押出成形セメント板の下地調整は、次による。
- (1) 下地面の清掃を行う。
  - (2) 日本建築学会材料規格 JASS18 M-201 による塗料を全面に塗り付ける。  
なお、仕上塗材製造所の仕様により、下塗材を JASS18 M-201 による塗料の代用とすることができる。

日本ペイント 下地調整材一覧 (JIS A 6916. 他)

C-1	ニッペ フィラー200
C-2	ニッペ 1材カチオンフィラー
	ニッペ ビルガードカチオンフィラーJ
CM-2	※ニッペ フィラー500 又はニッペ フィラー#1000
E	ニッペ アンダーフィラーS 又はニッペ アンダーフィラーAL
合成樹脂エマルジョンシーラー (JIS K5663)	ニッペ 水性透明シーラー、ニッペ 水性ホホワイトシーラー ニッペ 水性カチオンシーラー (透明・ホホワイト)、ニッペ 水性シミ止めシーラーII
JASS18 M-201	ニッペ ファイン浸透シーラー (透明)、ニッペ 浸透性シーラー (新)、 ニッペ ファイン浸透造膜シーラー、ニッペ ファインパーフェクトシーラー (透明)

※JIS 取得品ではありません。

15. 5. 6 工 法

- (a) 外装薄塗材Si及び可とう形外装薄塗材Si
- (1) 材料の練混ぜは、仕上塗材製造所の指定する水の量で均一になるように行う。ただし、溶剤系の下塗材の場合は、指定量の専用薄め液で均一になるように行う。
  - (2) 下塗りは、だれ、塗残しのないように均一に塗り付ける。
  - (3) 主材塗りは、次による。
    - (i) 吹付けの場合は、見本と同様の模様で均一に仕上がるように、指定の吹付け条件により吹き付ける。
    - (ii) ローラー塗りの場合は、見本と同様の模様で均一に仕上がるように、所定のローラーを用いて塗り付ける。  
なお、塗り回数は、仕上塗材製造所の仕様による。
- (b) 外装薄塗材E及び可とう形外装薄塗材E

- (1) 材料の練混ぜは、(a) (1) による。
  - (2) 下塗りは、(a) (2) による。
  - (3) 主材塗りは、次による。
    - (i) 吹付けの場合は、(a) (3) (i) による。
    - (ii) ローラー塗りの場合は、(a) (3) (ii) による。
    - (iii) こて塗りの場合は、見本と同様の模様で均一に仕上がるように、所定のこてを用いて塗り付ける。  
なお、塗り回数は、仕上塗材製造所の仕様による。
- (c) 防水形外装薄塗材 E
- (1) 材料の練混ぜは、(a) (1) による。
  - (2) 下塗りは、(a) (2) による。
  - (3) 増塗りは、出隅、入隅、目地部、開口部回り等に、はけ又はローラーにより、端部に段差のないように塗り付ける。
  - (4) 主材塗りは、次による。
    - (i) 基層塗りは、だれ、ピンホール、塗残しのないよう下地を覆うように均一に塗り付ける。  
なお、塗り回数は、仕上塗材製造所の仕様による。
    - (ii) 模様塗りは、次による。
      - ①吹付けの場合は、(a) (3) (i) のよる。
      - ②ローラー塗りの場合は、見本と同様の模様で均一に仕上がるように、所定のローラーを用いて塗り付ける。
- (d) 外装薄塗材 S
- (1) 材料の練混ぜは、仕上塗材製造所の指定する専用薄め液の量で均一になるように行う。
  - (2) 下塗りは、(a) (2) による。
  - (3) 主材塗りは、(a) (3) (i) による。
- (e) 内装薄塗材 C 及び内装薄塗材 L
- (1) 材料の練混ぜは、仕上塗材製造所の指定する水の量で均一になるように行う。  
なお、練混ぜ量は、仕上塗材製造所の指定する可使用時間以内に使い終わる量とする。
  - (2) 下塗りは、(a) (2) による。
  - (3) 主材塗りは、次による。
    - (i) 吹付けの場合は、(a) (3) (i) による。  
なお、塗り回数は、仕上塗材製造所の仕様による。
    - (ii) ローラー塗りの場合は、(a) (3) (ii) による。
    - (iii) こて塗りの場合は、(b) (3) (iii) による。
- (f) 内装薄塗材 Si 及び内装薄塗材 E
- (1) 材料の練混ぜは、仕上塗材製造所の指定する水の量で均一になるように行う。
  - (2) 下塗りは、(a) (2) による。
  - (3) 主材塗りは、(e) (3) による。
- (g) 内装薄塗材 W
- (1) 材料の練混ぜは、(f) (1) による。ただし、合成樹脂エマルションを使用する場合は、仕上塗材製造所の仕様による。
  - (2) 主材塗りは、次による。
    - (i) 吹付けの場合は、(e) (3) (i) による。
    - (ii) こて塗りの場合は、(b) (3) (iii) による。
- (h) 外装厚塗材 C
- (1) 材料の練混ぜは、(e) (1) による。ただし、溶剤系の下塗材又は上塗材の場合は、指定量の専用薄め液で均一になるように行う。

- (2) 下塗りは、(a) (2) による。
  - (3) 主材塗りは、次による。
    - (i) 吹付けの場合は、次による。
      - ①基層塗りと模様塗りの2回とする。
      - ②基層塗りは、だれ、ピンホール、塗残しのないよう下地を覆うように塗り付ける。
      - ③模様塗りは、(a) (3) (i) による。
      - ④凸部処理は、模様塗りののちに、見本塗板と同様の模様になるようにこて又はローラーにより押さえる。
    - (ii) こて塗りの場合は、(b) (3) (iii) による。
  - (4) 上塗材を用いる場合は、上塗りは、2回塗りとし、色むら、だれ、光沢むら等が生じないように均一に、はけ、ローラー又はスプレーガン等により塗り付ける。
- (i) 外装厚塗材 Si 及び外装厚塗材 E
- (1) 材料の練混ぜは、(f) (1) による。ただし、溶剤系の下塗材又は上塗材の場合は、指定量の専用薄め液で均一になるように行う。
  - (2) 下塗りは、(a) (2) による。
  - (3) 主材塗りは、次による。
    - (i) 吹付けの場合は、(h) (3) (i) による。
    - (ii) ローラー塗りの場合は、(a) (3) (ii) による。
    - (iii) こて塗りの場合は、(b) (3) (iii) による。
  - (4) 上塗りは、(h) (4) による。
- (j) 内装厚塗材 C
- (1) 材料の練混ぜは、(e) (1) による。
  - (2) 下塗りは、(a) (2) による。
  - (3) 主材塗りは、(h) (3) による。
- (k) 内装厚塗材 L 及び内装厚塗材 G
- (1) 材料の練混ぜは、(e) (1) による。
  - (2) 下塗りは、(a) (2) による。
  - (3) 主材塗りは、(b) (3) (iii) による。
- (l) 内装厚塗材 Si 及び内装厚塗材 E
- (1) 材料の練混ぜは、(f) (1) による。
  - (2) 下塗りは、(a) (2) による。
  - (3) 主材塗りは、(i) (3) による。
- (m) 複層塗材 CE 及び複層塗材 RE
- (1) 材料の練混ぜ
    - (i) 材料の練混ぜは、(e) (1) による。
    - (ii) 溶剤系の下塗材又は上塗材の場合は、指定量の専用薄め液で均一に薄める。
    - (iii) 2液形上塗材は、薄める前に基剤と硬化剤を指定の割合で混ぜ合わせる。
  - (2) 下塗りは、(a) (2) による。
  - (3) 主材塗りは、次による。
    - (i) 吹付けの場合は、(h) (3) (i) による。
    - (ii) ローラー塗りの場合は、(a) (3) (ii) による。
  - (4) 上塗りは、次による。
    - (i) 上塗材の所要量は、メタリックの場合は、 $0.4 \text{ kg/m}^2$ /以上とする。また、上塗りの工程を3回以上とし、第1回目はクリヤー又はメタリックと同系色のエナメルを塗り付け、最上層はクリヤーとする。
    - (ii) (i) 以外の場合は、上塗りは、2回塗りとし、色むら、だれ、光沢むら等が生じないように均一に、はけ、ローラー又はスプレーガンにより塗付ける。

- (n) 複層塗材 Si 及び複層塗材 E
- (1) 材料の練混ぜは、(i) (1) 及び (m) (1) (iii) による。
  - (2) 下塗りは、(a) (2) による。
  - (3) 主材塗りは、(m) (3) による。
  - (4) 上塗りは、(m) (4) による。
- (o) 可とう形複層塗材 CE
- (1) 材料の練混ぜは、(m) (1) による。
  - (2) 下塗りは、(a) (2) による。
  - (3) 主材塗りは、次による。
    - (i) 吹付けの場合は、次による。
      - ① 基層塗りは、(c) (4) (i) による。
      - ② 模様塗りは、(a) (3) (i) による。
      - ③ 凸部処理は、(h) (3) (i) ④による。
    - (ii) ローラー塗りの場合は、(a) (3) (ii) による。
  - (4) 上塗材は、(m) (4) (ii) による。
- (p) 防水形複層塗材 CE 及び防水形複層塗材 RE
- (1) 材料の練混ぜは、(m) (1) による。
  - (2) 下塗りは、(a) (2) による。
  - (3) 増塗りは、(c) (3) による。
  - (4) 主材塗りは、次による。
    - (i) 基層塗りは、2回塗りとし、だれ、ピンホール、塗残しのないよう下地を覆うように塗り付ける。
    - (ii) 模様塗りは、(c) (4) (ii) による。
  - (5) 上塗りは、(m) (4) (ii) による。
- (q) 防水形複層塗材 E
- (1) 材料の練混ぜは、(n) (1) による。
  - (2) 下塗りは、(a) (2) による。
  - (3) 増塗りは、(c) (3) による。
  - (4) 主材塗りは、(p) (4) による。
  - (5) 上塗りは、(m) (4) (ii) による。
- (r) 防水形複層塗材 RS
- (1) 材料の練混ぜ
    - (i) 材料の練混ぜは、(d) (1) による。  
なお、練混ぜ量は、仕上塗材製造所の指定する可使用時間内に使い終わる量とする。
    - (ii) 下塗材、主材、上塗材が2液形の場合は、薄める前に基材と硬化剤を指定の割合で混ぜ合わせる。
  - (2) 下塗りは、(a) (2) による。
  - (3) 増塗りは、(c) (3) による。
  - (4) 主材塗りは、(p) (4) による。
  - (5) 上塗りは、(m) (4) (ii) による。
- (s) 軽量骨材仕上塗材
- (1) 材料の練混ぜは、仕上塗材製造所の指定する方法で均一になるように行う。  
なお、練混ぜ量は、仕上塗材製造所の指定する可使用時間以内に使い終わる量とする。
  - (2) 下塗りは、(a) (2) による。
  - (3) 主材塗りは、(g) (2) による。

(a) 外装薄塗材 Si 仕上げ

15.5.6(a) 外装薄塗材 Si 砂壁状 (吹付け)

工 程	塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗 り 回 数
	規格番号	規格名称	種類			
下地調整	15.5.5による。					
1 下塗材	JIS A 6909	外装薄塗材 Si 下塗材	—	(1液・水系) ①ニッパ° 水性透明シーラー 水道水 100%	0.1以上	1
2 主材	JIS A 6909	外装薄塗材 Si 主材	—	(1液・水系) ①ニッパ° シリカリシン 水道水 0~3%	1.0以上	2

\*JIS A6909 外装薄塗材 Si の規格では、上記以外に下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A6909 適合仕様となります。)

●下塗材 (下地の種類等により使用できない場合もあります。)

①ニッパ° 水性ホワイトシーラー (1液・水系)

- ・ニッパ° 水性カチオンシーラー (透明・ホワイト) (1液・水系)
- ・ニッパ° ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) (2液・弱溶剤系)
- ・ニッパ° 浸透性シーラー (新) (2液・溶剤系)
- ・ニッパ° 一液浸透シーラー (1液・溶剤系)
- ・ニッパ° 1液ファインシーラー (1液・弱溶剤系)

(b) 外装薄塗材E仕上げ

15.5.6(b) 外装薄塗材E 砂壁状(吹付け)

工 程	塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗 り 回 数
	規格番号	規格名称	種類			
下地調整	15.5.5による。					
1 下塗材	JIS A 6909	外装薄塗材E 下塗材	—	(1液・水系) ①水性透明シーラー 水道水 100%	0.1以上	1
2 主材	JIS A 6909	外装薄塗材E 主材	—	(1液・水系) ②ニッペリシン 水道水 5~8%	1.0以上	2

\*JIS A6909 外装薄塗材Eの規格では、上記以外に下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 適合仕様となります。)

●下塗材(下地の種類等により使用できない場合もあります。)

- ①ニッペ 水性ホワイトシーラー (1液・水系)
- ①ニッペ 水性カチオンシーラー (透明・ホワイト) (1液・水系)
- ①ニッペ 浸透性シーラー (新) (2液・溶剤系)
  - ・ニッペ ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) (2液・弱溶剤系)
  - ・ニッペ 一液浸透シーラー (1液・溶剤系)
  - ・ニッペ 1液ファインシーラー (1液・弱溶剤系)

(b) 外装薄塗材E仕上げ（ゆず肌状、さざなみ状・ローラー）

15.5.6(b) 外装薄塗材E 砂壁状（ローラー）※

工 程	塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗 り 回 数
	規格番号	規格名称	種類			
下地調整	15.5.5による。					
1 下塗材	JIS A 6909	外装薄塗材E 下塗材	—	(1液・水系) ①ニッパ° 水性透明シーラー 水道水 100%	0.1以上	1
2 主材	JIS A 6909	外装薄塗材E 主材	—	(1液・水系) ①ニッパ° リシンR 水道水 0~3%	0.6以上	2

※当社の外装薄塗材E「ニッペリシンR」によるローラー仕上げは、砂壁状の仕上がりとなります。

\*JIS A6909 外装薄塗材Eの規格では、上記以外に下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 適合仕様となります。)

●下塗材（下地の種類等により使用できない場合もあります。）

- ①ニッパ° 水性ホワイトシーラー（1液・水系）
- ①ニッパ° 水性カチオンシーラー（透明・ホワイト）（1液・水系）
- ①ニッパ° 浸透性シーラー（新）（2液・溶剤系）
  - ・ニッパ° ファイン浸透シーラー（透明・ホワイト）（2液・弱溶剤系）
  - ・ニッパ° 一液浸透シーラー（1液・溶剤系）
  - ・ニッパ° 1液ファインシーラー（1液・弱溶剤系）

(c) 防水形外装薄塗材E

15.5.6(c) 防水形外装薄塗材E 凹凸状(吹付け)

工 程	塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗 り 回 数	
	規格番号	規格名称	種類				
下地調整		15.5.5による。					
1	下塗材	JIS A 6909	防水形外装薄塗材 E 下塗材	—	(1液・水系) ニッパ° 水性カチオンシーラー 透明 無希釈	0.1以上	1
2	増塗材	JIS A 6909	防水形外装薄塗材 E 主材	—	※ (1液・水系) ニッパ° DAN シリコンセラ S 水道水 5~10%	0.7以上	1
3	主材基層	JIS A 6909	防水形外装薄塗材 E 主材	—	※ ニッパ° DAN シリコンセラ S 水道水 5~10%	1.0以上	1~2
4	主材模様	JIS A 6909	防水形外装薄塗材 E 主材	—	※ ニッパ° DAN シリコンセラ S 水道水 0~5%	0.4以上	1

※ ニッパ° DAN シリコンセラ S は、JIS 規格品ではありません。

\* 上記以外に下記の商品も使用可能です。

- 下塗材（下地の種類等により使用できない場合もあります。）
  - ・ ニッパ° 水性カチオンシーラー ホワイト（1液・水系）
  - ・ ニッパ° ウルトラシーラーⅢ（透明・ホワイト）（1液・水系）
  - ・ ニッパ° ファイン浸透シーラー（透明・ホワイト）（2液・弱溶剤系）
  - ・ ニッパ° 浸透性シーラー（新）（2液・溶剤系）
  - ・ ニッパ° 一液浸透シーラー（1液・溶剤系）
  - ・ ニッパ° 1液ファインシーラー（1液・弱溶剤系）※

※新設の押出成形セメント板、GRC板などの場合は、ニッパ° 浸透性シーラー（新）、ニッパ° ファイン浸透シーラー（透明・ホワイト）を使用してください。

(c) 防水形外装薄塗材E

15.5.6(c) 防水形外装薄塗材E さざ波状(ローラー)

工 程	塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗り回 数	
	規格番号	規格名称	種類				
下地調整	15.5.5による。						
1	下塗材	JIS A 6909	防水形外装薄塗材 E 下塗材	—	(1液・水系) ①ニッパ° 水性カチオンシーラー 透明 無希釈	0.1以上	1
2	増塗材	JIS A 6909	防水形外装薄塗材 E 主材	—	(1液・水系) ①ニッパ° DAN シリコンセラー R 水道水 0~2%	0.7以上	1
3	主材基層	JIS A 6909	防水形外装薄塗材 E 主材	—	①ニッパ° DAN シリコンセラー R 水道水 0~2%	1.0以上	1~2
4	主材模様	JIS A 6909	防水形外装薄塗材 E 主材	—	①ニッパ° DAN シリコンセラー R 水道水 5~10%	0.4以上	1

\*JIS A 6909 防水形外装薄塗材の規格では、上記以外に下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 合格仕様となります。)

●下塗材(下地の種類等により使用できない場合もあります。)

- ①ニッパ° 水性カチオンシーラー(ホワイト)(1液・水系)
- ①ニッパ° ウルトラシーラーⅢ(透明・ホワイト)(1液・水系)
- ①ニッパ° 浸透性シーラー(新)(2液・溶剤系)
- ①ニッパ° ファイン浸透シーラー(透明・ホワイト)(2液・弱溶剤系)
- ①ニッパ° 一液浸透シーラー(1液・溶剤系)
- ・ニッパ° 1液ファインシーラー(1液・弱溶剤系)※

●主材

- ①ニッパ° DAN フレッシュ R(1液・水系)

※新設の押出成形セメント板、GRC板などの場合は、ニッパ° 浸透性シーラー(新)、ニッパ° ファイン浸透シーラー(透明・ホワイト)を使用してください。

(i) 外装厚塗材E

15.5.6(i) 外装厚塗材E 吹放し 凸部処理 (吹付け)

工 程	塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗 り 回 数	
	規格番号	規格名称	種類				
下地調整	15.5.5による。						
1	下塗材	JIS A 6909	外装厚塗材E 下塗材	—	(1液・水系) ①ニッパ° 水性カチオンシーラー 透明 無希釈	0.1以上	1
2	主材基層	JIS A 6909	外装厚塗材E 主材	—	(1液・水系) ①ニッパ° タルテックスタッコ 水道水 5~10%	1.5以上	1
3	主材模様	JIS A 6909	外装厚塗材E 主材	—	①ニッパ° タルテックスタッコ 水道水 0~5%	1.5以上	1
4	凸部処理	プラスチックローラーに塗料用シンナーAをつけて、主材模様吹き直後に凸部を押さえる。 (凸部処理の場合のみ実施)					
5	上塗材 ※1	—	—	—	(アクリル系・1液・水性) ニッパ° タルテック水性トップ つや一番 水道水 5~10%	0.3以上	2

※1. 適用は特記による。

\*JIS A 6909 外装厚塗材Eの規格では、上記以外に下記の製品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 適合仕様となります。)

●下塗材 (下地の種類等により使用できない場合もあります。)

- ①ニッパ° 水性カチオンシーラー ホワイト (1液・水系)
  - ・ニッパ° 水性透明シーラー (1液・水系)
  - ・ニッパ° 水性ホワイトシーラー (1液・水系)
  - ・ニッパ° ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) (2液・弱溶剤系)
  - ・ニッパ° 浸透性シーラー (新) (2液・溶剤系)
  - ・ニッパ° 一液浸透シーラー (1液・溶剤系)
  - ・ニッパ° 1液ファインシーラー (1液・弱溶剤系)

(m) 複層塗材RE

15.5.6(m) 複層塗材RE 凹凸模様 凸部処理 (吹付け)

工 程	塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗 り 回 数
	規格番号	規格名称	種類			
下地調整	15.5.5による。					
1 下塗材	JIS A 6909	複層仕上塗材 RE 下塗材	—	(1液・水系) ①ニッパ° 水性透明シーラー 水道水 100%	0.1以上	1
2 主材基層	JIS A 6909	複層仕上塗材 RE 主材	—	(1液・水系) ①ニッパ° タイルラック 1液EPO-S ベース 水道水 1~3%	0.7以上	1
3 主材模様	JIS A 6909	複層仕上塗材 RE 主材	—	①ニッパ° タイルラック 1液EPO-S ベース 水道水 1~3%	0.8以上	1
4 凸部処理	プラスチックローラーに塗料用シンナーAをつけて、主材模様吹き直後に凸部を押さえる。 (凸部処理の場合のみ実施)					
5 上塗材	JIS A 6909	複層仕上塗材 RE 上塗材	耐候形 1種	(フッ素系・1液・水系) ※ オーデフレッシュ F100Ⅲ 水道水 5~10%	0.25以上	2
			—	(シリコン系・1液・水系) ①オーデフレッシュ Si100Ⅲ 水道水 5~10%		
			—	(ウレタン系・1液・水系) ①オーデフレッシュ U100Ⅱ 水道水 5~10%		
—	(アクリル系・1液・水系) ①ニッパ° タイルラック 水性トップつや一番 水道水 5~10%					

※オーデフレッシュ F100Ⅲの場合、上塗り1回目には、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。

\*JIS A 6909 複層仕上塗材REの規格では、上記以外に下記の商品も使用可能です。  
(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 適合仕様となります。)

●下塗材 (下地の種類等により使用できない場合もあります。)

- ①ニッパ° 水性ホワイトシーラー (1液・水系)
- ①ニッパ° 水性カチオンシーラー (透明・ホワイト) (1液・水系)
- ①ニッパ° ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) (2液・弱溶剤系)
- ①ニッパ° 浸透性シーラー (新) (2液・溶剤系)
- ①ニッパ° 一液浸透シーラー (1液・溶剤系)
- ・ニッパ° 1液ファインシーラー (1液・弱溶剤系)

●上塗材

- ・パワーオーデフレッシュF (フッ素系・2液・水系)  
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ・スーパーオーデフレッシュF (フッ素系・1液・水系)  
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ①デュフロン4FⅡフレッシュ (フッ素系・2液・溶剤系)

(上塗材1回目塗りには、「デュフロン4FⅡ中塗」を塗装してください。)

・ファイン4Fセラミック (フッ素系・2液・弱溶剤系)

①ニッパ ファインフッソ (フッ素系・2液・弱溶剤系)

・パワーオーデフレッシュSi (シリコン系・2液・水系)

(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

①スーパーオーデフレッシュSi (シリコン系・1液・水系)

(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

①ニッパ ファインシリコンフレッシュ (シリコン系・2液・弱溶剤系)

①ニッパ ファインSi (シリコン系・2液・弱溶剤系)

①ニッパ ファインウレタンU100 (ウレタン系・2液・弱溶剤系)

・ニッパ 1液ファインウレタンU100 (ウレタン系・1液・弱溶剤系)

15. 5. 6 (m) 複層塗材RE ゆず肌状 (ローラー仕上げ)

工 程	塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗り回 数	
	規格番号	規格名称	種類				
下地調整		15. 5. 5による。					
1	下塗材	JIS A 6909	複層仕上塗材 RE 下塗材	—	(1液・水系) ①ニッパ° 水性透明シーラー 水道水 100%	0.1以上	1
2	主材	JIS A 6909	複層仕上塗材 RE 主材	—	(1液・水系) ①ニッパ° タイルラック 1液EPO-S ベース 水道水 2~6%	1.0以上	1
3	上塗材	JIS A 6909	複層仕上塗材 RE 上塗材	耐候形 1種	(フッ素系・1液・水系) ※ オーデフレッシュ F100Ⅲ 水道水 5~10%	0.25以上	2
				—	(シリコン系・1液・水系) ①オーデフレッシュ Si100Ⅲ 水道水 5~10%		
				—	(ウレタン系・1液・水系) ①オーデフレッシュ U100Ⅱ 水道水 5~10%		
—	(アクリル系・1液・水系) ①ニッパ° タイルラック 水性トップつや一番 水道水 5~10%						

※オーデフレッシュ F100Ⅲの場合、上塗り1回目には、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。

\*JIS A 6909 複層仕上塗材REの規格では、上記以外に下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 適合仕様となります。)

●下塗材 (下地の種類等により使用できない場合もあります。)

- ①ニッパ° 水性ホワイトシーラー (1液・水系)
- ①ニッパ° 水性カチオンシーラー (透明・ホワイト) (1液・水系)
- ①ニッパ° ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) (2液・弱溶剤系)
- ①ニッパ° 浸透性シーラー (新) (2液・溶剤系)
- ①ニッパ° 一液浸透シーラー (1液・溶剤系)
- ・ニッパ° 1液ファインシーラー (1液・弱溶剤系)

●上塗材

- ・パワーオーデフレッシュF (フッ素系・2液・水系)  
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ・スーパーオーデフレッシュF (フッ素系・1液・水系)  
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ①デュフロン4FⅡフレッシュ (フッ素系・2液・溶剤系)  
(上塗材1回目塗りには、「デュフロン4FⅡ中塗」を塗装してください。)
- ・ファイン4Fセラミック (フッ素系・2液・弱溶剤系)
- ①ニッパ° ファインフッソ (フッ素系・2液・弱溶剤系)
- ・パワーオーデフレッシュSi (シリコン系・2液・水系)  
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ①スーパーオーデフレッシュSi (シリコン系・1液・水系)  
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

- ④ニッパ° ファインシリコンフレッシュ (シリコン系・2液・弱溶剤系)
- ④ニッパ° ファインSi (シリコン系・2液・弱溶剤系)
- ④ニッパ° ファインウレタンU100 (ウレタン系・2液・弱溶剤系)
- ・ニッパ° 1液ファインウレタンU100 (ウレタン系・1液・弱溶剤系)

(n) 複層塗材E

15.5.6(n) 複層塗材E 凹凸模様 凸部処理 (吹付け)

工 程	塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗 り 回 数
	規格番号	規格名称	種類			
下地調整	15.5.5による。					
1 下塗材	JIS A 6909	複層仕上塗材E 下塗材	—	(1液・水系) ①ニッパ° 水性透明シーラー 水道水 100%	0.1以上	1
2 主材基層	JIS A 6909	複層仕上塗E 主材	—	(1液・水系) ①ニッパ° タイルラック EMA-S ベース 100K 水道水 1~3%	0.7以上	1
3 主材模様	JIS A 6909	複層仕上塗E 主材	—	(1液・水系) ①ニッパ° タイルラック EMA-S ベース 100K 水道水 1~3%	0.8以上	1
4 凸部処理	プラスチックローラーに塗料用シンナーAをつけて、主材模様吹き直後に凸部を押さえる。 (凸部処理の場合のみ実施)					
5 上塗材	JIS A 6909	複層仕上塗材E 上塗材	耐候形 1種	(フッ素系・1液・水系) ※ オーデフレッシュ F100Ⅲ 水道水 5~10%	0.25以上	2
			—	(シリコン系・1液・水系) ①オーデフレッシュ Si100Ⅲ 水道水 5~10%		
			—	(ウレタン系・1液・水系) ①オーデフレッシュ U100Ⅱ 水道水 5~10%		
—	(アクリル系・1液・水系) ①ニッパ° タイルラック 水性トップ つや一番 水道水 5~10%					

※オーデフレッシュ F100Ⅲの上塗1回目には「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。

\*JIS A 6909 複層仕上塗材Eの規格では、上記以外に下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 適合仕様となります。)

●下塗材 (下地の種類等により使用できない場合があります。)

- ①ニッパ° 水性ホワイトシーラー (1液・水系)
- ①ニッパ° 水性カチオンシーラー (透明・ホワイト) (1液・水系)
- ①ニッパ° ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) (2液・弱溶剤系)
- ①ニッパ° 浸透性シーラー (新) (2液・溶剤系)
- ①ニッパ° 一液浸透シーラー (1液・溶剤系)
- ・ニッパ° 1液ファインシーラー (1液・弱溶剤系)

●上塗材

- ・パワーオーデフレッシュF (フッ素系・2液・水系)  
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ・スーパーオーデフレッシュF (フッ素系・1液・水系)  
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ①デュフロン4FⅡフレッシュ (フッ素系・2液・溶剤系)

(上塗材1回目塗りには、「デュフロン4FⅡ中塗」を塗装してください。)

①デュフロン4Fセラミック (フッ素系・2液・弱溶剤系)

②ニッパ ファインフッソ (フッ素系・2液・弱溶剤系)

・パワーオーデフレッシュSi (シリコン系・2液・水系)

(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

③スーパーオーデフレッシュSi (シリコン系・1液・水系)

(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

④ニッパ ファインシリコンフレッシュ (シリコン系・2液・弱溶剤系)

⑤ニッパ ファインSi (シリコン系・2液・弱溶剤系)

⑥ニッパ ファインウレタンU100 (ウレタン系・2液・弱溶剤系)

・ニッパ 1液ファインウレタンU100 (ウレタン系・1液・弱溶剤系)

(n) 複層塗材E

15.5.6(n) 複層塗材E ゆず肌状 (ローラー仕上げ)

工 程	塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗り回 数	
	規格番号	規格名称	種類				
下地調整	15.5.5による。						
1	下塗材	JIS A 6909	複層仕上塗材E 下塗材	—	(1液・水系) ①ニッパ° 水性透明シーラー 水道水 100%	0.1以上	1
2	主材	JIS A 6909	複層仕上塗材E 主材	—	(1液・水系) ①ニッパ° タイルラック EMA-S ベース 100K 水道水 2~6%	1.0以上	1
3	上塗材	JIS A 6909	複層仕上塗材E 上塗材	耐候形 1種	(フッ素系・1液・水系) ※ オーデフレッシュ F100Ⅲ 水道水 5~10%	0.25以上	2
				—	(シリコン系・1液・水系) ①オーデフレッシュ Si100Ⅲ 水道水 5~10%		
				—	(ウレタン系・1液・水系) ①オーデフレッシュ U100Ⅱ 水道水 5~10%		
—	(アクリル系・1液・水系) ①ニッパ° タイルラック 水性トップつや一番 水道水 5~10%						

※オーデフレッシュ F100Ⅲの場合、上塗1回目には「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。

\*JIS A 6909 複層仕上塗材Eの規格では、上記以外に下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 適合仕様となります。)

●下塗材 (下地の種類等により使用できない場合もあります。)

- ①ニッパ° 水性ホワイトシーラー (1液・水系)
- ①ニッパ° 水性カチオンシーラー (透明・ホワイト) (1液・水系)
- ①ニッパ° ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) (2液・弱溶剤系)
- ①ニッパ° 浸透性シーラー (新) (2液・溶剤系)
- ①ニッパ° 一液浸透シーラー (1液・溶剤系)
- ・ニッパ° 1液ファインシーラー (1液・弱溶剤系)

●上塗材

- ・パワーオーデフレッシュ F (フッ素系・2液・水系)  
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ・スーパーオーデフレッシュ F (フッ素系・1液・水系)  
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ①デュフロン4 FⅡフレッシュ (フッ素系・2液・溶剤系)  
(上塗材1回目塗りには、「デュフロン4 FⅡ中塗」を塗装してください。)
- ①ファイン4 Fセラミック (フッ素系・2液・弱溶剤系)
- ①ニッパ° ファインフツ (フッ素系・2液・弱溶剤系)
- ・パワーオーデフレッシュ Si (シリコン系・2液・水系)  
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ①スーパーオーデフレッシュ Si (シリコン系・1液・水系)

(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

- ①ニッパ° ファインシリコンフレッシュ (シリコン系・2液・弱溶剤系)
- ①ニッパ° ファインSi (シリコン系・2液・弱溶剤系)
- ①ニッパ° ファインウレタンU100 (ウレタン系・2液・弱溶剤系)
- ・ニッパ° 1液ファインウレタンU100 (ウレタン系・1液・弱溶剤系)

(n) 複層塗材 Si

15.5.6(n) 複層塗材 Si 凹凸模様 凸部処理 (吹付け)

工 程	塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗り回 数
	規格番号	規格名称	種類			
下地調整	15.5.5による。					
1 下塗材	JIS A 6909	複層仕上塗材 Si 下塗材	—	(1液・水系) ①ニッパ° 水性透明シーラー 水道水 100%	0.1以上	1
2 主材基層	JIS A 6909	複層仕上塗 Si 主材	—	(1液・水系) ①ニッパ° タイルラック シリカ S ベース 水道水 1~3%	0.7以上	1
3 主材模様	JIS A 6909	複層仕上塗 Si 主材	—	①ニッパ° タイルラック シリカ S ベース 水道水 1~3%	0.8以上	1
4 凸部処理	プラスチックローラーに塗料用シンナーAをつけて、主材模様吹き直後に凸部を押さえる。 (凸部処理の場合のみ実施)					
5 上塗材	JIS A 6909	複層仕上塗材 Si 上塗材	耐候形 1種	(フッ素系・1液・水系) ※ オーデフレッシュ F100Ⅲ 水道水 5~10%	0.25以上	2
			—	(シリコン系・1液・水系) ①オーデフレッシュ Si100Ⅲ 水道水 5~10%		
			—	(ウレタン系・1液・水系) ①オーデフレッシュ U100Ⅱ 水道水 5~10%		
—	(アクリル系・1液・水系) ①ニッパ° タイルラック 水性トップつや一番 水道水 5~10%					

※オーデフレッシュ F100Ⅲの場合、上塗1回目には「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。

\*JIS A 6909 複層仕上塗材 Si の規格では、上記以外に下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 適合仕様となります。)

●下塗材 (下地の種類等により使用できない場合もあります。)

- ①ニッパ° 水性ホワイトシーラー (1液・水系)
- ・ニッパ° 水性カチオンシーラー (透明・ホワイト) (1液・水系)
- ①ニッパ° ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) (2液・弱溶剤系)
- ・ニッパ° 浸透性シーラー (新) (2液・溶剤系)
- ①ニッパ° 一液浸透シーラー (1液・溶剤系)
- ・ニッパ° 1液ファインシーラー (1液・弱溶剤系)

●上塗材

- ・パワーオーデフレッシュ F (フッ素系・2液・水系)  
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ・スーパーオーデフレッシュ F (フッ素系・1液・水系)  
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ・デュフロン4 FⅡフレッシュ (フッ素系・2液・溶剤系)  
(上塗材1回目塗りには、「デュフロン4 FⅡ中塗」を塗装してください。)
- ・ファイン4 Fセラミック (フッ素系・2液・弱溶剤系)

- ・ニッパ° ファインフッソ (フッ素系・2液・弱溶剤系)
- ・パワーオーデフレッシュ Si (シリコン系・2液・水系)  
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ・スーパーオーデフレッシュ Si (シリコン系・1液・水系)  
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ①ニッパ° ファインシリコンフレッシュ (シリコン系・2液・弱溶剤系)
  - ・ニッパ° ファイン Si (シリコン系・2液・弱溶剤系)
- ②ニッパ° ファインウレタンU100 (ウレタン系・2液・弱溶剤系)
  - ・ニッパ° 1液ファインウレタンU100 (ウレタン系・1液・弱溶剤系)

(p) 防水形複層塗材 RE

15.5.6(p) 防水形複層塗材 RE 凹凸模様 凸部処理 (吹付け)

工 程	塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗 り 回 数	
	規格番号	規格名称	種類				
下地調整	15.5.5による。						
1	下塗材	JIS A 6909	防水形複層塗材 RE 下塗材	—	(1液・水系) ㊟ニッパ° 水性カチオンシーラー 透明 無希釈	0.1以上	1
2	増塗材	JIS A 6909	防水形複層塗材 RE 主材	—	(1液・水系) ㊟ニッパ° DAN フィラー エポ° S 水道水 5~10%	0.9以上	1
3	主材基層	JIS A 6909	防水形複層塗材 RE 主材	—	㊟ニッパ° DAN フィラー エポ° S 水道水 5~10%	1.7以上	2
4	主材模様	JIS A 6909	防水形複層塗材 RE 主材	—	㊟ニッパ° DAN フィラー エポ° S 水道水 0~3%	0.9以上	1
5	プラスチックローラーに塗料用シンナーをつけて、主材模様吹き直後に凸部を押える。 (凸部処理の場合のみ実施)						
5	上塗材	JIS A 6909	防水形複層塗材 RE 上塗材	耐候形 1種	(フッ素系・1液・水系) ※ オーデフレッシュ F100Ⅲ 水道水 5~10%	0.25以上	2
				—	(シリコン系・1液・水系) ㊟オーデフレッシュ Si100Ⅲ 水道水 5~10%		
				—	(ウレタン系・1液・水系) ㊟オーデフレッシュ U100Ⅱ 水道水 5~10%		
—	(アクリル系・1液・水系) ㊟ニッパ° DAN タイル 水性上塗 水道水 5~20%						

※ オーデフレッシュ F100Ⅲの場合、上塗材の1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。

\* JIS A 6909 防水形複層塗材 RE の規格では、下記の商品も使用可能です。

(㊟マーク品の組合せが、JIS A 6909 適合仕様となります。)

● 下塗材 (下地の種類等により塗装できない場合もあります。)

㊟ニッパ° 水性カチオンシーラー ホワイト (1液・水系)

㊟ニッパ° 浸透性シーラー (新) (2液・溶剤系)

・ニッパ° ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) (2液・弱溶剤系)

・ニッパ° 一液浸透シーラー (1液・溶剤系)

・ニッパ° 1液ファインシーラー (1液・弱溶剤系) ※

※新設の押出成形セメント板、GRC板などの場合は、ニッパ° 浸透性シーラー (新)、ニッパ° ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) を使用してください。

● 上塗材

・パワーオーデフレッシュ F (フッ素系・2液・水系)

(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

- ・スーパーオーデフレッシュF（フッ素系・1液・水系）  
（上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。）
- ・ファイン4Fセラミック（フッ素系・2液・弱溶剤系）
- ①ニッパ° ファインフッソ（フッ素系・2液・弱溶剤系）
- ・デュフロン4FⅡフレッシュ（フッ素系・2液・溶剤系）  
（上塗材1回目塗りには、「デュフロン4FⅡソフト中塗」を塗装してください。）
- ・ニッパ° パワーオーデフレッシュSi（シリコン系・2液・水系）  
（上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。）
- ①ニッパ° スーパーオーデフレッシュSi（シリコン系・1液・水系）  
（上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。）
- ①ニッパ° ファインシリコンフレッシュ（シリコン系・2液・弱溶剤系）
- ①ニッパ° ファインSi（シリコン系・2液・弱溶剤系）
- ①ニッパ° 弾性ファインウレタンU100（ウレタン系・2液・弱溶剤系）
- ・ニッパ° 1液ファインウレタンU100（ウレタン系・1液・弱溶剤系）  
（ニッパ° 1液ファインウレタンU100 弾性添加剤を現場で添加し、ご使用ください。）

(p) 防水形複層塗材 RE

15.5.6(p) 防水形複層塗材 RE ゆず肌状 (ローラー仕上げ)

工 程	塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗り回 数	
	規格番号	規格名称	種類				
下地調整		15.5.5による。					
1	下塗材	JIS A 6909	防水形複層塗材 RE 下塗材	—	(1液・水系) ①ニッパ° 水性カチオンシーラー 透明 無希釈	0.1以上	1
2	増塗材	JIS A 6909	防水形複層塗材 RE 主材	—	(1液・水系) ①ニッパ° DAN フィラー エポ° 水道水 0~3%	0.9以上	1
3	主材基層	JIS A 6909	防水形複層塗材 RE 主材	—	①ニッパ° DAN フィラー エポ° 水道水 0~3%	1.7以上	2
4	主材模様	JIS A 6909	防水形複層塗材 RE 主材	—	①ニッパ° DAN フィラー エポ° 水道水 0~3%	0.9以上	1
5	上塗材	JIS A 6909	防水形複層塗材 RE 上塗材	耐候形 1種	(フッ素系・1液・水系) ※ オーデフレッシュ F100Ⅲ 水道水 5~10%	0.25以上	2
				—	(シリコン系・1液・水系) ①オーデフレッシュ Si100Ⅲ 水道水 5~10%		
				—	(ウレタン系・1液・水系) ①オーデフレッシュ U100Ⅱ 水道水 5~10%		
—	(アクリル系・1液・水系) ①ニッパ° DAN タイル 水性上塗 水道水 5~20%						

※ オーデフレッシュ F100Ⅲの場合、上塗材の1回目塗りには、「オーデフレッシュ F100Ⅲ中塗」を塗装してください。

\*ニッパ° DAN フィラー エポ°をローラー (多孔質ローラー) で塗装すると、仕上げの形状は「さざ波状」になります。細目のローラーを使用したり、希釈率を調整することによりゆず肌状の仕上げ形状に近づけることはできますが、事前に仕上がりの確認を行ってください。

\*JIS A 6909 防水形複層塗材 RE の規格では、下記の商品も使用可能です。  
(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 適合仕様となります。)

●下塗材

- ①ニッパ° 水性カチオンシーラー ホワイト (1液・水系)
- ①ニッパ° 浸透性シーラー (新) (2液・溶剤系)
  - ・ニッパ° ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) (2液・弱溶剤系)
  - ・ニッパ° 一液浸透シーラー (1液・溶剤系)
  - ・ニッパ° 1液ファインシーラー (1液・弱溶剤系) ※

※新設の押出成形セメント板、GRC板などの場合は、ニッパ° 浸透性シーラー (新)、ニッパ° ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) を使用してください。

●上塗材

- ・パワーオーデフレッシュF (フッ素系・2液・水系)  
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ・スーパーオーデフレッシュF (フッ素系・1液・水系)  
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ・ファイン4Fセラミック (フッ素系・2液・弱溶剤系)
- ①ニッパ° ファインフッソ (フッ素系・2液・弱溶剤系)
- ・デュフロン4FⅡフレッシュ (フッ素系・2液・溶剤系)  
(上塗材1回目塗りには、「デュフロン4FⅡソフト中塗」を塗装してください。)
- ・ニッパ° パワーオーデフレッシュSi (シリコン系・2液・水系)  
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ①ニッパ° スーパーオーデフレッシュSi (シリコン系・1液・水系)  
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ①ニッパ° ファインシリコンフレッシュ (シリコン系・2液・弱溶剤系)
- ①ニッパ° ファインSi (シリコン系・2液・弱溶剤系)
- ①ニッパ° 弾性ファインウレタンU100 (ウレタン系・2液・弱溶剤系)
- ・ニッパ° 1液ファインウレタンU100 (ウレタン系・1液・弱溶剤系)  
(ニッパ° 1液ファインウレタンU100 弾性添加剤を現場で添加し、ご使用ください。)

(q) 防水形複層塗材 E

15.5.6(q) 防水形複層塗材 E 凹凸模様 凸部処理 (吹付け)

工 程	塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗り回 数
	規格番号	規格名称	種類			
下地調整	15.5.5による。					
1	下塗材	JIS A 6909	防水形複層塗材 E 下塗材	—	(1液・水系) ①ニッパ° 水性カチオンシーラー 透明 無希釈	0.1以上 1
2	増塗材	JIS A 6909	防水形複層塗材 E 主材	—	(1液・水系) ①ニッパ° DAN タイル中塗 水道水 5~8%	0.9以上 1
3	主材基層	JIS A 6909	防水形複層塗材 E 主材	—	①ニッパ° DAN タイル中塗 水道水 5~8%	1.7以上 2
4	主材模様	JIS A 6909	防水形複層塗材 E 主材	—	①ニッパ° DAN タイル中塗 水道水 1~3%	0.9以上 1
5	凸部処理	プラスチックローラーに塗料用シンナーAをつけて、主材模様吹き直後に凸部を押さえる。 (凸部処理の場合のみ実施)				
6	上塗材	JIS A 6909	防水形複層塗材 E 上塗材	耐候形 1種	(フッ素系・1液・水系) ※ オーデフレッシュ F100Ⅲ 水道水 5~10%	0.25以上 2
				—	(シリコン系・1液・水系) ①オーデフレッシュ Si100Ⅲ 水道水 5~10%	
				—	(ウレタン系・1液・水系) ①オーデフレッシュ U100Ⅱ 水道水 5~10%	
—	(アクリル系・1液・水系) ①ニッパ° DAN タイル 水性上塗 水道水 5~20%					

※ オーデフレッシュ F100Ⅲの場合、上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。

\*JIS A 6909 防水形複層塗材 E の規格では、下記の商品も使用可能です。  
(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 適合仕様となります。)

●下塗材 (下地等の種類により使用できない場合もあります。)

- ①ニッパ° 水性カチオンシーラー ホワイト (1液・水系)
- ①ニッパ° ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) (2液・弱溶剤系)
- ①ニッパ° 浸透性シーラー (新) (2液・溶剤系)
- ①ニッパ° 一液浸透シーラー (1液・溶剤系)

●上塗材

- ・パワーオーデフレッシュ F (フッ素系・2液・水系)  
(上塗材1回目塗りは、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ・スーパーオーデフレッシュ F (フッ素系・1液・水系)  
(上塗材1回目塗りは、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ・ファイン4Fセラミック (フッ素系・2液・弱溶剤系)

- ④ニッパ° ファインフツソ (フッ素系・2液・弱溶剤系)
  - ・デュフロン4 F IIフレッシュ (フッ素系・2液・溶剤系)  
(上塗材1回目塗りには、「デュフロン4 F IIソフト中塗」を塗装してください。)
  - ・パワーオーデフレッシュ Si (シリコン系・2液・水系)  
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ④ニッパ° スーパーオーデフレッシュ Si (シリコン系・1液・水系)  
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ④ニッパ° ファインシリコンフレッシュ (シリコン系・2液・弱溶剤系)
- ④ニッパ° ファイン Si (シリコン系・2液・弱溶剤系)
- ④ニッパ° 弾性ファインウレタンU100 (ウレタン系・2液・弱溶剤系)
  - ・ニッパ° 1液ファインウレタンU100 (ウレタン系・1液・弱溶剤系)  
(ニッパ° 1液ファインウレタンU100 弾性添加剤を現場で添加し、ご使用ください。)

(q) 防水形複層塗材 E

15.5.6(q) 防水形複層塗材 E ゆず肌状 (ローラー仕上げ)

工 程	塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗り回 数	
	規格番号	規格名称	種類				
下地調整	15.5.5による。						
1	下塗材	JIS A 6909	防水形複層塗材 E 下塗材	—	(1液・水系) ①ニッパ° 水性カチオンシーラー 透明 無希釈	0.1以上	1
2	増塗材	JIS A 6909	防水形複層塗材 E 主材	—	(1液・水系) ①ニッパ° DAN タイル中塗 水道水 5~8%	0.9以上	1
3	主材基層	JIS A 6909	防水形複層塗材 E 主材	—	①ニッパ° DAN タイル中塗 水道水 5~8%	1.7以上	2
4	主材模様	JIS A 6909	防水形複層塗材 E 主材	—	①ニッパ° DAN タイル中塗 水道水 5~8%	0.9以上	1
5	上塗材	JIS A 6909	防水形複層塗材 E 上塗材	耐候形 1種	(フッ素系・1液・水系) ※ オーデフレッシュ F100Ⅲ 水道水 5~10%	0.25以上	2
				—	(シリコン系・1液・水系) ①オーデフレッシュ Si100Ⅲ 水道水 5~10%		
				—	(ウレタン系・1液・水系) ①オーデフレッシュ U100Ⅱ 水道水 5~10%		
—	(アクリル系・1液・水系) ①ニッパ° DAN タイル 水性上塗 水道水 5~20%						

※ オーデフレッシュ F100Ⅲの場合、上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ F100Ⅲ中塗」を塗装してください。

\*DAN タイル中塗をローラー (多孔質ローラー) で塗装すると、仕上げの形状は「さざ波状」になります。細目のローラーを使用したり、希釈率を調整することによりゆず肌状の仕上げ形状に近づけることはできませんが、事前に仕上がりの確認を行ってください。

\*JIS A 6909 防水形複層塗材 E の規格では、下記の商品も使用可能です。  
(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 適合仕様となります。)

- 下塗材 (下地等の種類により使用できない場合もあります。)
- ①ニッパ° 水性カチオンシーラー ホワイト (1液・水系)
- ①ニッパ° ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) (2液・弱溶剤系)
- ①ニッパ° 浸透性シーラー (新) (2液・溶剤系)
- ①ニッパ° 一液浸透シーラー (1液・溶剤系)
- 上塗材
- ・パワーオーデフレッシュ F (フッ素系・2液・水系)  
(上塗材1回目塗りは、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ・スーパーオーデフレッシュ F (フッ素系・1液・水系)  
(上塗材1回目塗りは、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

- ・ ファイン4Fセラミック (フッ素系・2液・弱溶剤系)
- ④ニッパ° ファインフツソ (フッ素系・2液・弱溶剤系)
- ・ デュフロン4FⅡフレッシュ (フッ素系・2液・溶剤系)  
(上塗材1回目塗りは、「デュフロン4FⅡソフト中塗」を塗装してください。)
- ・ パワーオーデフレッシュSi (シリコン系・2液・水系)  
(上塗材1回目塗りに、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ④ニッパ° スーパーオーデフレッシュSi (シリコン系・1液・水系)  
(上塗材1回目塗りに、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ④ニッパ° ファインシリコンフレッシュ (シリコン系・2液・弱溶剤系)
- ④ニッパ° ファインSi (シリコン系・2液・弱溶剤系)
- ④ニッパ° 弾性ファインウレタンU100 (ウレタン系・2液・弱溶剤系)
- ・ ニッパ° 1液ファインウレタンU100 (ウレタン系・1液・弱溶剤系)  
(ニッパ° 1液ファインウレタンU100 弾性添加剤を現場で添加し、ご使用ください。)

### 15.5.7 所要量等の確認

所要量等の確認は、特記がなければ、表15.5.4による。ただし、防水形の仕上塗材及び軽量骨材仕上塗材の場合の所要量等の確認方法は、表15.5.4以外は、単位面積当たりの使用量によることを標準とする。

表15.5.4 所要量等の確認

確認事項	仕上りの程度
見本帳又は見本塗板との比較	見本と色合、模様、つや等の程度が同様であること。
塗り面の状態	むら、はじき等がないこと。

## 6節 マスチック塗材塗り

### 15.6.1 適用範囲

この節は、コンクリート面、押出成形セメント板面、モルタル面及びALCパネル面に、マスチック塗材を多孔質のハンドローラーを用いて塗る工法に適用する。

### 15.6.2 マスチック塗材塗り

(a) マスチック塗材塗りは、表15.6.1により、種別は、特記による。

表15.6.1 マスチック塗材塗り

工 程	種別		塗材その他	商 品 名 希釈剤・希釈率	塗付け量 (kg/m <sup>2</sup> )
	A種	B種			
素地 ごしらえ	○(注)1		18.2.5 [モルタル面及びプラスター面の素地ごしらえ]又は18.2.6 [コンクリート面、ALC パネル面及び押出成形セメント板面の素地ごしらえ]による。		
1 下地押え	○	—	合成樹脂エマルジョンシーラー	ニッペ 水性透明シーラー 水道水 100%	0.12
	—	○	マスチックC用シーラー	—	0.12
2 塗材塗り	○	—	マスチック塗材A	ニッペ マスチックA 水道水 0～5%	1.20
	—	○	マスチック塗材C	—	1.80
3 仕上材 塗り	—	○	つや有合成樹脂エマルジョンペイント2回塗り	—	0.20

(注) 1. 素地ごしらえの種別は、塗材その他の欄による。

2. 押出成形セメント板面の素地ごしらえは、表18.2.6 [コンクリート面及び押出成形セメント板面の素地ごしらえ]によるB種とする。

(b) 仕上材塗りはつや有合成樹脂エマルジョンペイントとし、種類及び適用は特記による。

(c) マスチック塗材は、製造所において調合されたものとする。

(d) マスチック塗材は、施工に先立ちかくはん機を用いてかくはんする。

(e) 塗付けは、下地にくばり塗りを行ったのち、均し塗りを行い、次にローラー転圧によりパターン付けをして、一段塗りで仕上げる。

(f) 塗継ぎ幅は、800 mm程度を標準として、塗継ぎ部が目立たないように、むらなく仕上げる。

(g) パターンの不ぞろいは、追掛塗をし、むら直しを行って調整する。

日本ペイントの対応商品は、下記ホームページをご参照ください。

JIS A 6909 建築用仕上塗材 規格と組合せ一覧表

<http://www.nipponpaint.co.jp/tips/JIS2.pdf>

## 18章 塗装工事

### 1節 一般事項

#### 18. 1. 1 適用範囲

この章は、建物内外部のコンクリート、木部、金属、ボード類、モルタル等の素地に塗装を施す工事に適用する。

#### 18. 1. 2 基本要品質

- (a) 塗装工事に用いる材料は、所定のものであること。
- (b) 塗装の仕上がり面は、所要の状態であること。
- (c) 塗膜は、耐久性、耐火性等に対する有害な欠陥がないこと。

#### 18. 1. 3 材料

- (a) この章で規定する塗料のホルムアルデヒド放散量は、J I S等の材料規格において放散量が規定されている場合は、特記がなければ、F☆☆☆☆とする。
- (b) 特記により防火材料の指定がある場合は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする。
- (c) 上塗り用の塗料は、原則として、製造所において、指定された色及びつやに調合する。ただし、少量の場合は、同一製造所の塗料を用いて現場調色とすることができる。
- (d) 塗装に使用する塗料の副資材は、上塗材料の製造所が指定するものとする。

#### 18. 1. 4 施工一般

- (a) 塗料の取扱い  
塗料は、原則として、調合された塗料をそのまま使用する。ただし、素地面の粗密、吸収性の大小、気温の高低等に応じて、適切な粘度に調整することができる。
- (b) こしわけ  
塗料は、使用直前によくかき混ぜ、必要に応じて、こしわけを行う。
- (c) 研磨は、次による。
  - (1) 研磨紙は、JIS R 6251 (研磨布) 及び JIS R 6252 (研磨紙) による。
  - (2) 研磨紙ずりは、下層塗膜及びパテが硬化乾燥したのち、各層ごとに研磨紙で素地の長手方向に、下層の塗膜を研ぎ去らないように注意して研ぐ。
- (d) パテかい、パテしごき等は、次による。
  - (1) 穴埋め : 深い穴、大きな隙間等に穴埋め用パテ等をへら又はこてで押し込み埋める。
  - (2) パテかい : 面の状況に応じて、面のくぼみ、隙間、目違い等の部分に、パテをへら又はこてで薄く付ける。
  - (3) パテしごき : (1) 及び (2) の工程を行ったのち、研磨紙ずりを行い、パテを全面にへら付けし、表面に過剰のパテを残さないよう、素地が現れるまで十分しごき取る。
- (e) 塗り方は、(1) から (3) までの工法のうち塗料に適したものとし、色境、隅、ちり回り等は、乱さないよう十分注意し、区画線を明確に塗り分ける。  
なお、錆止め塗料塗りは、浸漬塗りとすることができる。
  - (1) はけ塗り : はけを用いる。はけ目を正しく一様に塗る。
  - (2) 吹付け塗り : 塗装用のスプレーガンを用いる。ガンの種類、口径、空気圧等は、用いる塗料の性状に応じて、適切なものを選び、吹きむらのないよう一様に塗る。
  - (3) ローラーブラシ塗り : ローラーブラシを用いる。隅、ちり回り等は、小ばけ又は専用ローラーを用い、全面が均一になるように塗る。
- (f) 塗付け量は、平らな面に実際に付着させる塗料の標準量 (1回当たり) とする。ただし、塗料の標準量は、薄める前のものとする。
- (g) 塗装工程に種別のあるものは、特記された種別に応じて、各表中の○印の工程を行う。
- (h) 各塗装工程の工程間隔時間及び最終養生時間は、材料の種類、気象条件等に応じて適切に定める。
- (i) 中塗り及び上塗りは、なるべく各層の色を変えて塗る。
- (j) 組立及び取付け後又は工事の取合い上、塗装困難となる部分は、あらかじめ仕上げ塗りまで行う。
- (k) シーリング面に塗装仕上げを行う場合は、シーリング材が硬化したのちに行うものとし、塗重ね適合性を確認し、必要な処理を行う。

### 18. 1. 5 見本

仕上げの色合は、見本帳または見本塗板による。

### 18. 1. 6 施工管理

- (a) 塗装場所の気温が5℃以下、湿度が85%以上又は換気が適切でなく結露するなど塗料の乾燥に不適当な場合は、原則として、塗装を行わない。やむを得ず塗装を行う場合は、採暖、換気等の養生を行う。
- (b) 外部の塗装は、降雨のおそれのある場合及び強風時には、原則として、行わない。
- (c) 塗装面、その周辺、床等に汚損を与えないように注意し、必要に応じて、あらかじめ塗装箇所周辺に適切な養生を行う。
- (d) 塗装を行う場所は、換気に注意して、溶剤による中毒を起こさないようにする。
- (e) 火気に注意し、爆発、火災等の事故を起こさないようにする。また、塗料をふき取った布、塗料の付着した布片等で、自然発火を起こすおそれのあるものは、作業終了後速やかに処置する。

### 18. 1. 7 塗装面の確認等

塗装面の確認は目視とし、表18. 1. 1による。ただし、錆止め塗料塗りの場合は、次によることを標準として、塗付け量又は標準膜厚の確認を行う。

- (1) 工事現場塗装の場合は、使用量から単位面積当たりの塗付け量を推定する。
- (2) 工場塗装の場合は、電磁膜厚計その他適切な測定器具により、膜厚の確認を行う。
- (3) 試験ロットの構成、1回の測定箇所数、合否の判定、不合格ロットの処置等は、1. 2. 2 [施工計画書]による品質計画で定める。

表18. 1. 1 塗装面の確認方法

項目	状態
見本塗板等との比較	見本塗板等と色、つや及び仕上げの程度が同様であること。
仕上り面の状態	むら、しわ、へこみ、はじき、つぶ等がないこと。

## 2節 素地ごしらえ

### 18.2.1 適用範囲

この節は、木部、鉄鋼面、亜鉛めっき鋼面、モルタル面、コンクリート面、ボード面等の素地ごしらえに適用する。

### 18.2.2 木部の素地ごしらえ

(a) 木部の素地ごしらえは表18.2.1により、種別は特記による。特記がなければ、不透明塗料塗りの場合はA種、透明塗料塗りの場合はB種とする。

表18.2.1 木部の素地ごしらえ

工 程	種別		塗料 そ の 他			面の処置	
	A種	B種	規格番号	規格名称	種類		
1	汚れ、付着物除去	○	○	—			木部を傷付けないように除去し、油類は、溶剤等でふき取る。
2	やに処理	○	○	—			やには、削り取り又は電気ごて焼きのうえ、溶剤等でふき取る。
3	研磨紙ざり	○	○	研磨紙P120～220			かんな目、逆目、けば等を研磨する。
4	節止め	○	—	JASS 18 M-304	木部下塗り用調合ペイント	合成樹脂	節及びその周辺にはけ塗りを行う。 Hi-CR 下塗白（無鉛） 塗料用ソナー A 0～5%
				JASS 18 M-308	セラックニス	白ラックス 1種	
5	穴埋め	○	—	JIS K 5669	合成樹脂 エマルジョンパテ	耐水形	割れ、穴、隙間、くぼみ等に充填する。 Hiビニックス耐水パテ（仕上）
6	研磨紙ざり	○	—	研磨紙P120～220			穴埋め乾燥後、全面を平らに研磨する。

- (注) 1. ラワン、しおじ等導管の深いもの場合は、必要に応じて、工程2ののちに塗料製造所の指定する目止め処理を行う。  
 2. 合成樹脂エマルジョンパテは、外部に用いない。  
 3. JASS 18 M-304 及びM-308 は、日本建築学会材料規格である。  
 4. 工程4 節止めにおいて、JASS 18 M-304 は合成樹脂調合ペイント及びつや有り合成樹脂エマルジョンペイントに適用し、それ以外はJASS 18 M-308 を適用する。

(b) 透明塗料塗りの素地ごしらえは、必要に応じて、表18.2.1の工程を行ったのち、次の工程を行う。

- (1) 着色顔料を用いて着色兼用目止めをする場合は、はけ、へら等を用いて、着色顔料が塗面の木目に十分充填するように塗り付け、へら、乾いた布等で、色が均一になるように余分な顔料をきれいにふき取る。
- (2) 着色剤を用いて着色する場合は、はけ等で色むらの出ないように塗り、塗り面の状態を見計らい、乾いた布でふき取って、色が均一になるようにする。
- (3) 素地面に、仕上げに支障のおそれがある甚だしい色むら、汚れ、変色等がある場合は、漂白剤等を用いて修正したのち、水ぶき等により漂白剤を除去し、十分に乾燥させる。

### 18. 2. 3 鉄鋼面の素地ごしらえ

鉄鋼面の素地ごしらえは表18. 2. 2により、種別は特記による。特記がなければ、C種とする。

表18. 2. 2 鉄鋼面の素地ごしらえ

工 程	種別			塗料その他	面の処置	備考
	A種 (注)	B種 (注)	C種			
1 汚れ、付着物除去	○	—	○	—	スクレーパー、ワイヤブラシ等で除去	—
2 油類除去	○	—	—	—	弱アルカリ性液で加熱処理後、湯又は水洗い。	—
	—	○	○	—	溶剤ぶき	
3 錆落とし	○	—	—	—	酸漬け、中和、湯洗いにより除去	放置せず次の工程に移る。
	—	○	—	—	ブラスト法により除去	
	—	—	○	—	ディスクサンダー又はスクレーパー、ワイヤブラシ、研磨紙P120～220で除去	
4 化成皮膜処理	○	—	—	—	りん酸塩処理後、湯洗い乾燥	

(注) A種及びB種は製作工場で行うものとする。

### 18. 2. 4 亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえ

亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえは表18. 2. 3により、種別は特記による。特記がなければ、塗り工法に応じた節の規定による。

表18. 2. 3 亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえ

工 程	種別		塗料その他	面の処置	塗付け量 (kg/m <sup>2</sup> )	備考
	A種 (注)1	B種 (注)2				
1 汚れ、付着物除去	○	○	—	スクレーパー、ワイブラシ等で除去	—	—
2 油類除去	○	—	—	弱アルカリ性液で加熱処理後、湯又は水洗い	—	—
	—	○	—	溶剤ぶき		
3 化成皮膜処理	○	—	—	りん酸塩処理後、水洗い乾燥又はクロメートフリー処理後、乾燥	—	—

(注) 1. A種は製作工場で行うものとする。

2. 鋼製建具等に使用する亜鉛めっき鋼板は、鋼板製造所にて工程3の化成皮膜処理を行ったものとし、種別はB種とする。

18. 2. 5 モルタル面及びプaster面の素地ごしらえ

モルタル面及びプaster面の素地ごしらえは表18. 2. 4により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。

表18. 2. 4 モルタル面及びプaster面の素地ごしらえ

工 程	種別		塗料 そ の 他			日本ペイント 商品名	面の処置	
	A種	B種	規格 番号	規格名称	種類			
1	乾燥	○	○	—			—	素地を十分に乾燥させる。
2	汚れ・付着物除去	○	○	—			—	素地を傷付けないように除去する。
3	吸込止め	○	○	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョンシーラー	—	ニッペ® 水性透明シーラー 清水100%	全面に塗り付ける。
4	穴埋め パテかき	○	○	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1	ニッペ®ファイラー 200	ひび割れ、穴等を埋めて、不陸を調整する。
				JIS K 5669	合成樹脂エマルジョンパテ	耐水形	Hiビ®ニックス耐水パテ(仕上)	
5	研磨紙 ずり	○	○	研磨紙P120～220			—	パテ乾燥後、表面を平らに研磨する。
6	パテ しごき	○	—	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1	ニッペ®ファイラー 200	全面にパテをしごき取り、平滑にする。
				JIS K 5669	合成樹脂エマルジョンパテ	耐水形	Hiビ®ニックス耐水パテ(仕上)	
7	研磨紙 ずり	○	—	研磨紙P120～220			—	パテ乾燥後、全面を平らに研磨する。

- (注) 1. アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りの場合は、工程3の吸込止めは、塗料製造所の指定するものとする。  
 2. 仕上材が仕上塗材の場合は、パテ及び工程3の吸込止めは、仕上塗材製造所の指定するものとする。  
 3. 仕上材が壁紙の場合は、パテ及び工程3の吸込止めは、壁紙専用のものとする。  
 4. 仕上材がマスチック塗材塗りの場合は、工程3の吸込止めを省略する。  
 5. 合成樹脂エマルジョンパテは、外部に用いない。

※吸い込み止めには、ニッペ® 水性透明シーラー以外に、ニッペ® 水性ホワイトシーラー、ニッペ® 水性シミ止めシーラーⅡ、ニッペ® 水性カチオンシーラー透明、ニッペ® 水性カチオンシーラーホワイトも適用可能です。

18. 2. 6 コンクリート面、ALCパネル面及び押出成形セメント板面の素地ごしらえ

(a) コンクリート面及びALCパネル面の素地ごしらえは表18. 2. 5により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。ただし、7節の場合は (b) による。

表18. 2. 5 コンクリート面及びALCパネル面の素地ごしらえ

工 程	種別		塗料 そ の 他			日本ペイント 商品名	面の処置	
	A種	B種	規格 番号	規格名称	種類			
1	乾燥	○	○	—			—	素地を十分に乾燥させる。
2	汚れ・付着物除去	○	○	—			—	素地を傷付けないように除去する。
3	下地調整 塗り	○	○	JIS A 6916	建築用下地 調整塗材	C-1 又 はC-2	(C-1) ニッペファイター 200	全面に塗り付けて平滑にする。
							(C-2) ニッペ 1材カチオンファイター ニッペビルガード カチオンファイターJ	
4	研磨紙 ずり	○	○	研磨紙P120～220			—	乾燥後、表面を平らに研磨する。
5	パテ しごき	○	—	JIS A 6916	建築用下地 調整塗材	C-1	ニッペファイター 200	全面にパテをしごき取り、平滑にする。
				JIS K 5669	合成樹脂 エマルジョンパテ	耐水形	Hiビニレックス 耐水パテ(仕上)	
6	研磨紙 ずり	○	—	研磨紙P120～220			—	乾燥後、全面を平らに研磨する。

- (注) 1. ALCパネルの面の場合は、工程3の前に合成樹脂エマルジョンシーラーを全面に塗り付ける。  
 2. 合成樹脂エマルジョンパテは、外部に用いない。  
 3. 工程3の建築用下地調整塗材のC-1、C-2の使い分けは、15. 5. 5[下地調整] (a) 及び (d) による。

(b) コンクリート面及び押出成形セメント板面の素地ごしらは表18. 2. 6による。ただし、種別は、塗り工法に応じた節の規定による。

表18. 2. 6 コンクリート面及び押出成形セメント板面の素地ごしらえ

工 程	種別		塗料 そ の 他			日本ペイント 商品名	面の処置
	A種	B種	規格 番号	規格名称	種類		
1 乾燥	○	○	—			—	素地を十分に乾燥させる。
2 汚れ・付着物除去	○	○	—			—	素地を傷付けないように除去する。
3 下地調整塗り (注)1	○	—	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-2	ニッパ <sup>®</sup> 1材カチオン <sup>®</sup> ファイナ ニッパ <sup>®</sup> ビルガード カチオン <sup>®</sup> ファイナ-J	全面に塗り付けて平滑にする。
4 吸込止め	○	○	JASS 18 M-201	反応形合成樹脂シーラーおよび弱溶剤系反応形合成樹脂シーラー	—	ニッパ <sup>®</sup> 浸透性シーラー(新)、ニッパ <sup>®</sup> ファイン浸透シーラー(透明) 無希釈	全面に塗り付ける。
5 パテしごき	○	—	JASS 18 M-202	反応形合成樹脂パテ	2液形エポキシ樹脂パテ	タカガードEパテ	全面にしごき取り平滑にする。
6 研磨紙ずり	○	—	研磨紙P120～220			—	乾燥後、全面を平らに研磨する。

- (注) 1. 押出成形セメント板面の場合は、工程3を省略する。  
 2. 2液形エポキシ樹脂ワニス、2液形エポキシ樹脂パテは、上塗り塗料製造所の指定する製品とする。  
 3. JASS 18 M-201 及びM-202 は、日本建築学会材料規格である。

18. 2. 7 せっこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえ

せっこうボード面及びその他のボード面の素地ごしらえは表18. 2. 7により、種別は特記による。特記がなければ、せっこうボードの目地工法が継目処理工法の場合はA種、その他の場合はB種とする。

表18. 2. 7 せっこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえ

工 程	種別		塗料 そ の 他			日本ペイント 商品名	面の処置	
	A種	B種	規格 番号	規格名称	種類			
1	乾燥	○	○	—			—	継目処理部分を 十分乾燥させる。
2	汚れ・付 着物除去	○	○	—			—	素地を傷付けない ように除去する。
3	穴埋め パテかい	○	○	JIS K 5669	合成樹脂 エマルジョンパテ	一般形	Hi ビニレックス エコ仕上げパテ	釘頭、たたき跡、 傷等を埋め、不陸 を調整する。
				JIS A 6914	せっこうボ ード用目地処理 材	ジョイント コンパ ウンド	—	
4	研磨紙 ずり	○	○	研磨紙P120～220			—	パテ乾燥後、表面 を平らに研磨す る。
5	パテ しごき	○	—	JIS K 5669	合成樹脂 エマルジョンパテ	一般形	Hi ビニレックス エコ仕上げパテ	全面にパテをし ごき取り、平滑に する。
				JIS A 6914	せっこうボ ード用目地処理 材	ジョイント コンパ ウンド	—	
6	研磨紙 ずり	○	—	研磨紙P120～220			—	パテ乾燥後、全面 を平らに研磨す る。

- (注) 1. 屋外及び水回り部分の場合は、工程3及び工程5の合成樹脂エマルジョンパテは、塗料製造所の指定するものとする。(Hi ビニレックスエコ仕上げパテは、屋外及び水回り部には使用しないでください。)
2. 工程3及び工程5のせっこうボード用目地処理材は、素地がせっこうボードの場合に適用する。
3. けい酸カルシウム板の場合は、工程3の前に吸込止めとして JASS 18 M-201 による塗料 (ニッパ 浸透性シーラー (新)、ニッパ ファイン浸透シーラー (透明)) を全面に塗る。
4. 仕上材が仕上塗材の場合は、パテは、仕上塗材製造所の指定するものとする。
5. 仕上材が壁紙の場合は、パテは、壁紙専用のものとする。

### 3節 錆止め塗料塗り

#### 18.3.1 適用範囲

この節は、鉄鋼面及び亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料塗りに適用する。

#### 18.3.2 塗料種別

(a) 鉄鋼面錆止め塗料の種別は表18.3.1のA種とする。ただし、8節の場合はB種とする。

表18.3.1 鉄鋼面錆止め塗料の種別

種別	錆止め塗料その他				塗付け量 (kg/m <sup>2</sup> )	標準膜厚 (μm)	適用
	規格番号	規格名称	種類	商品名			
A種	JIS K 5674	鉛・クロムフリー さび止めペイント	1種	速乾PZヘルゴンエ 塗料用シナーA 0~10% 超速乾型PZヘルゴンエ 塗料用シナーA 0~10%	0.10	30	屋外 屋内
B種	次のいずれかによる。						
	JASS 18 M-111	水系さび止め ペイント	—	水性ハイポンプライマー 水道水 0~5%	0.11	30	屋内
	JIS K 5674	鉛・クロムフリー さび止めペイント	2種		0.11	30	

(注) 1. JASS 18 M-111 は、日本建築学会材料規格である。

2. JIS K 5674 の1種は溶剤系、2種は水系である。

\*JASS 18 M-111 規格では、下記商品も使用可能です。

- ・オーデハイボンプライマー

(b) 亜鉛めっき鋼面錆止め塗料の種別は表18.3.2のA種又はB種とし、適用は特記による。特記がなければ、A種とする。ただし、8節の場合はC種とする。

表18.3.2 亜鉛めっき鋼面錆止め塗料の種別

種別	さび止め塗料その他				塗付け量 (kg/m <sup>2</sup> )	標準膜厚 (μm)	適用
	規格番号	規格名称	種類	商品名			
A種	JPMS 28	一液変性エポキシ 樹脂さび止め ペイント	—	1液ハイポンプファインデクロ ※1 塗料用シナーA 5~10%	0.10	30	屋外 屋内
B種	JASS 18 M-109	変性エポキシ樹脂プ ライマー(変性エポキシ 樹脂プライマーおよ び弱溶剤系変性エ ポキシ樹脂プライ マー)	—	ハイポンプファイン プライマー-II 塗料用シナーA 0~10%	0.14	40	屋外 屋内
C種	JASS 18 M-111	水系さび止め ペイント	—	水性ハイポンプ プライマー-※3 水道水 0~5%	0.11	30	屋内

(注) JPMS 28 は日本塗料工業会規格、JASS 18 M-109 及びM-111 は日本建築学会材料規格である。

\*JPMS 28 規格では、下記商品も使用可能です。

- ・ニッパースパーワンエース※1
- ・ユニエポック60プライマー※2

※1 1液ハイポンプファインデクロ、ニッパースパーワンエースは、はけ・ローラー塗装用です。スプレーでの塗装は仕上がり感が低下する場合がありますので、ご注意ください。

※2 ユニエポック60プライマーは、スプレー塗装用です。はけ・ローラーでの塗装は仕上がり感が低下する場合がありますので、ご注意ください。

\*JASS 18 M-109 規格では、下記商品も使用可能です。

- ・ハイボン20デクロ
- ・ハイボン20ファイン
- ・ハイボン20ZNI (新)

\*JASS 18 M-111 規格では、下記商品も使用可能です。

- ・オーデハイボンプライマー

※3 水性ハイボンプライマーは、はけ・ローラー塗装用です。スプレーでの塗装は仕上がり感が低下する場合がありますので、ご注意ください。

### 18.3.3 錆止め塗料塗り

(a) 鉄鋼面錆止め塗料塗りは表18.3.3により、種別は特記による。特記がなければ、見え掛り部分はA種とし、見え隠れ部分はB種とする。

表18.3.3 鉄鋼面錆止め塗料塗り

工 程		種 別		塗り工法その他
		A種	B種	
素地ごしらえ		○(注)		18.2.3による。
1	錆止め塗料塗り (下塗り1回目)	○	○	18.3.2(a)による。
2	研磨紙ざり	○	—	研磨紙P120~220
3	錆止め塗料塗り (下塗り2回目)	○	○	工程1に同じ

(注) 素地ごしらえの種別は、塗り工法その他の欄による。

(b) 鉄骨等鉄鋼面の錆止め塗料塗り工法は、次による。

- (1) 1回目の錆止め塗料塗りは、製作工場において組立て後に行う。ただし、組立後塗装困難となる部分は、組立前に錆止め塗料を2回塗る。
- (2) 2回目の錆止め塗料塗りは、工事現場において建方及び接合完了後、汚れ及び付着物を除去して行う。  
なお、塗装に先立ち、接合部の未塗装部及び損傷部分は、汚れ、付着物、スパッター等を除去し補修塗りを行い、乾燥後、2回目塗りを行う。

(c) 亜鉛めっき鋼面錆止め塗料塗りは、表18.3.4により、種別は特記による。特記がなければ、鋼製建具等はA種とし、その他はB種とする。ただし、B種に用いる錆止め塗料は表18.3.2のB種とする。

表18.3.4 亜鉛めっき鋼面錆止め塗料塗り

工 程		種 別		塗り工法その他
		A種	B種	
素地ごしらえ		○(注)	—	表18.2.3によるA種 ただし、鋼製建具等はB種
		—	○(注)	表18.2.3によるB種
1	錆止め塗料塗り (下塗り1回目)	○	○	18.3.2(b)による。
2	研磨紙ざり	○	—	研磨紙P180~240
3	錆止め塗料塗り (下塗り2回目)	○	—	工程1に同じ

(注) 素地ごしらえの種別は、塗り工法その他の欄による。

(d) 鋼製建具等亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料塗り工法は、次による。

- (1) 1回目の錆止め塗料塗りにおいて、見え隠れ部分は、組立前の部材のうちに行う。また、見え掛り部分は、組立後、溶接箇所等を修正したのちに行う。
- (2) 2回目の錆止め塗料塗りは、工事現場にて取付け後、汚れ及び付着物を除去し、損傷部の補修塗りを行い、平滑に仕上げた後に行なう。ただし、取付け後塗装困難となる部分は、取付けに先立ち行う。
- (3) 鋼製建具に用いる鋼板類で鉄鋼面の場合は、(b)の工法による。

(e) 7節の場合の鋼製建具等亜鉛めっき鋼面の下塗りの工法は、次の(1)から(3)までによる。ただし、

下塗りの工程、塗料及び塗付け量は、表18.7.2による。

- (1) 見え隠れ部分は、組立前の部材のうちに下塗りを行う。また、見え掛り部分は、組立後、溶接箇所等を修正し、ディスクサンダー又は研磨紙P120程度で研磨し、下塗りを行う。
  - (2) 工事現場において取付け後、汚れ及び付着物を除去し、損傷部分は、ディスクサンダー又は研磨紙P120程度で金属素地面が現れるまで錆等を除去し、JASS 18M-109による塗料(表18.3.2のB種)を1回塗る。
  - (3) 鋼製建具に用いる鋼板類で鉄鋼面の場合は、18.7.2(b)の工法による。
- (f) 次の部分は、塗装しない。
- (1) 7.8.2[工場塗装の範囲](a)の部分
  - (2) 軽量鉄骨下地の類で、亜鉛めっきされたもの
  - (3) 床型枠用鋼製デッキプレートの類で、亜鉛めっきされたもの
  - (4) 鋼製建具等で、両面フラッシュ戸の表面板裏側部分(中骨、力骨等を含む)の見え隠れ部分

#### 4節 合成樹脂調合ペイント塗り (SOP)

##### 18.4.1 適用範囲

この節は、木部、鉄鋼面及び亜鉛めっき鋼面の合成樹脂調合ペイント塗りに適用する。

##### 18.4.2 塗料の種類

合成樹脂調合ペイント塗りの塗料の種類は、特記による。特記がなければ、1種とする。

##### 18.4.3 木部合成樹脂調合ペイント塗り

木部合成樹脂調合ペイント塗りは、表18.4.1により、種別は特記による。特記がなければ、屋外はA種、屋内はB種とする。ただし、多孔質広葉樹の場合を除く。

表18.4.1 木部合成樹脂調合ペイント塗り

工 程	種別		塗料その他			商 品 名	塗付け量 (kg/m <sup>2</sup> )
	A種	B種	規格番号	規格名称	種類		
素地ごしらえ	○		18.2.2による。				
1 下塗り (1回目)	○	○	JASS 18 M-304	木部下塗り用調 合ペイント	合成 樹脂	Hi-CR 下塗り白 (無鉛) 塗料用シナー A 0~5%	0.09
2 パテかい	—	○	JIS K 5669	合成樹脂エマルジョン パテ	耐水形	Hi ビニックス耐水パテ (仕上)	—
3 下塗り (2回目)	○	—	JASS 18 M-304	木部下塗り用調 合ペイント	合成 樹脂	Hi-CR 下塗り白 (無鉛) 塗料用シナー A 0~5%	0.09
4 研磨紙ざり	—	○	研磨紙P 120~220				
5 中塗り	○	○	JIS K 5516	合成樹脂調合 ペイント	—	Hi-CR デラックスエコ 塗料用シナー A 2~7%	0.09
6 上塗り	○	○	JIS K 5516	合成樹脂調合 ペイント	—	Hi-CR デラックスエコ 塗料用シナー A 2~7%	0.08

(注) 1. 下塗りは、塗料を素地によくなじませるように塗る。木口部分は、特に丁寧に行う。

2. JASS 18 M-304 は、日本建築学会材料規格である。

\*Hi ビニレックス耐水パテ (仕上) は、屋外及び水回り部には使用しないでください。

### 18.4.4 鉄鋼面合成樹脂調合ペイント塗り

鉄鋼面合成樹脂調合ペイント塗りは表18.4.2により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。

表18.4.2 鉄鋼面合成樹脂調合ペイント塗り

工 程	種別		塗料その他		商 品 名	塗付け量 (kg/m <sup>2</sup> )
	A種	B種	規格番号	規格名称		
錆止め塗料塗り	○(注)		18.3.3(a)による。			
1 中塗り (1回目)	○	○	JIS K 5516	合成樹脂調合ペイント	Hi-CR デラックスエコ 塗料用シーラー A 2~7%	0.09
2 研磨紙ざり	○	—	研磨紙P 220~240			
3 中塗り (2回目)	○	—	JIS K 5516	合成樹脂調合ペイント	Hi-CR デラックスエコ 塗料用シーラー A 2~7%	0.09
4 上塗り	○	○	JIS K 5516	合成樹脂調合ペイント	Hi-CR デラックスエコ 塗料用シーラー A 2~7%	0.08

(注) 錆止め塗料塗りの種別は、塗料その他の欄による。

### 18. 4. 5 亜鉛めっき鋼面合成樹脂調合ペイント塗り

亜鉛めっき鋼面合成樹脂調合ペイント塗りは、表18. 4. 3による。

表18. 4. 3 亜鉛めっき鋼面合成樹脂調合ペイント塗り

工 程		塗料その他		商 品 名	塗付け量 (kg/m <sup>2</sup> )
		規格番号	規格名称		
錆止め塗料塗り		18. 3. 3 (c) による。			
1	中塗り	JIS K 5516	合成樹脂調合ペイント	Hi-CR デラックスエコ 塗料用シンナー A 2~7%	0.09
2	上塗り	JIS K 5516	合成樹脂調合ペイント	Hi-CR デラックスエコ 塗料用シンナー A 2~7%	0.08

## 5節 クリヤラッカー塗り (CL)

### 18.5.1 適用範囲

この節は、木部のクリヤラッカー塗りに適用する。

### 18.5.2 クリヤラッカー塗り

クリヤラッカー塗りは表18.5.1により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。

表18.5.1 木部クリヤラッカー塗り

工 程	種別		塗料その他			商 品 名	塗付け量 (kg/m <sup>2</sup> )
	A種	B種	規格番号	規格名称	種類		
素地ごしらえ	○(注)1		18.2.2による。				
1 下塗り	○	○	JIS K 5533	ラッカー系シーラー	ウッド シーラー	—	0.10
2 目止め	○	—	目止め剤				—
3 中塗り	○	—	JIS K 5533	ラッカー系シーラー	サジツ グシーラー	—	0.10
4 研磨紙ずり	○	○	研磨紙P220～240				
5 上塗り (1回目)	○	○	JIS K 5531	ニトロセルロースラッカー	木材用 クリヤラカ ー	—	0.10
6 研磨紙ずり	○	—	研磨紙P240～320				
7 上塗り (2回目)	○	—	JIS K 5531	ニトロセルロースラッカー	木材用 クリヤラカ ー	—	0.10
8 仕上げ 塗り	○	○	JIS K 5531	ニトロセルロースラッカー	木材用 クリヤラカ ー	—	0.09

- (注) 1. 素地ごしらえの種別は、塗料その他の欄による。  
2. 着色兼用目止めとする場合は、工程2を省略する。

## 6節 アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り (NAD)

### 18.6.1 適用範囲

この節は、屋内のコンクリート面、モルタル面等のアクリル樹脂系非水分散形塗料塗りに適用する。

### 18.6.2 アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り

アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りは表18.6.1により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。

表18.6.1 アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り

工 程	種別		塗料その他		商 品 名	塗付け量 (kg/m <sup>2</sup> )
	A種	B種	規格番号	規格名称		
素地ごしらえ	○(注)1		素地の乾燥を十分に行い、汚れ及び付着物を除去する。 (注)2、(注)3、(注)4			
1 下塗り	○	○	JIS K 5670	アクリル樹脂系非水分散形塗料	ニッパ°ケンエースG-II 塗料用シンナーA 0~10%	0.10
2 研磨紙張り	○	—	研磨紙P220~240			
3 中塗り	○	—	JIS K 5670	アクリル樹脂系非水分散形塗料	ニッパ°ケンエースG-II 塗料用シンナーA 0~10%	0.10
4 上塗り	○	○	JIS K 5670	アクリル樹脂系非水分散形塗料	ニッパ°ケンエースG-II 塗料用シンナーA 0~10%	0.10

(注) 1. 素地ごしらえの種別は、塗料その他の欄による。

2. モルタル面の素地ごしらえは、表18.2.4によるB種とする。

3. コンクリート面の素地ごしらえは、表18.2.5によるB種とする。

4. 押出成形セメント板面の素地ごしらえは、表18.2.6によるB種とする。

\* ニッパ°ケンエースG-IIは艶消しです。艶有り仕上げが必要な場合は「ニッパ°ケンエースG-IIグロス」をご使用ください。

\* JIS K 5670 規格では下記商品も使用可能です。

●下塗り、中塗り、上塗り

- ・ ニッパ°ケンエースG-IIグロス
- ・ ニッパ°ケンエースGアクトII

\*下塗り・中塗り・上塗りとも、同一商品をご使用ください。

## 7節 耐候性塗料塗り (DP)

### 18. 7. 1 適用範囲

この節は、屋外の鉄鋼面、亜鉛めっき鋼面、コンクリート面等の耐候性塗料塗りに適用する。

### 18. 7. 2 鉄鋼面耐候性塗料塗り

- (a) 鉄鋼面耐候性塗料塗りは、表18. 7. 1による。なお、製作工場で溶接した箇所の下塗りは、(b) (2)による。

表18. 7. 1 鉄鋼面耐候性塗料塗り

工 程	塗料その他			商 品 名	塗付け量 (kg/m <sup>2</sup> )	
	規格番号	規格名称	種類 又は 等級			
素地ごしらせ		表18. 2. 2によるB種				
1	下塗り (1回目)	JIS K 5552	ジンクリッチ プライマー	2種	ニッパジンキ-8000メタルグレー ニッパジンキ-8500シナー0~15%	0.14
2	下塗り (2回目)	JIS K 5551	構造物用さび止め ペイント	A種	ハイボン30マッシュアップライマー-K ハイボン30キシナー0~10%	0.14
3	下塗り (3回目)	JIS K 5551	構造物用さび止め ペイント	A種	ハイボン30マッシュアップライマー-K ハイボン30キシナー0~10%	0.14
4	研磨紙ざり	研磨紙P120~220				
5	中塗り	JIS K 5659	鋼構造物用耐候 性塗料	中塗り 塗料	ファイン中塗DP 塗料用シナーAまたはSA0~10%	0.14
6	上塗り	JIS K 5659	鋼構造物用耐候 性塗料	上塗り 塗料 等級は 特記に よる。	1級の場合(ふっ素系) ファイン4Fセラミック 塗料用シナーA0~10%	0.10
					2級の場合(シリコン系) ファインシリコンフレッシュ 塗料用シナーA0~10%	
					3級の場合(ポリウレタン系) ファインウレタンU100 塗料用シナーA5~15%	

(注) 工程6まで製作工場で行う場合は、工程4は省略する。

- (b) 鉄骨等鉄鋼面の下塗りは、次による。

- (1) 下塗りは、製作工場において組立後に行う。ただし、組み立後塗装困難となる部分は、組立前に下塗りを行う。
- (2) 製作工場で溶接した箇所は、ディスクサンダー又は研磨紙P120程度で金属素地面が現れるまで錆等を除去し、構造物用錆止めペイント(A種)を3回塗る。
- (3) 現場組立後、現場溶接部及び組立中の下塗り損傷部分は、ディスクサンダー又は研磨紙P120程度で金属素地面が現れるまで錆等を除去し、JASS 18 M-109による塗料(表18. 3. 2のB種)を3回塗る。

- 上記以外に下記商品も使用可能です。

- 上塗り

- デュフロン100フレッシュ (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 1級)
- デュフロン100ファイン (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 1級)
- デュフロン100ニューファイン (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 1級)

- ファイン Si (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 2 級)
- ハイボン 50 上塗 (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 3 級)
- ハイボン 50 ファイン (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 3 級)
- 中塗り
  - デュフロン 100 ファイン 中塗 (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
  - デュフロン 100 ファイン 中塗 U (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
  - デュフロン 100 中塗 K (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
  - デュフロン 100 中塗 (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
  - ハイボン 30 ファイン 中塗 (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
  - ハイボン 30 マスチック 中塗 K (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
  - ハイボン 30 マスチック 中塗 (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
  - ハイボン 30 ファイン 中塗 U (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)

組合せ例

工程 仕上種類	種別	上塗り	中塗り	下塗り (3 回目)	下塗り (2 回目)	下塗り (1 回目)
上塗り 1 級	—	デュフロン 100 フレッシュ	デュフロン 100 中塗 K 又は デュフロン 100 中塗	ハイボン 30 マスチック ライマー K	ハイボン 30 マスチック ライマー K	ニッペジンキー 8000 メタルグレー
	—	デュフロン 100 ファイン 又は デュフロン 100 ニューファイン	デュフロン 100 ファイン 中塗 又は デュフロン 100 ファイン 中塗 U	ハイボン 30 マスチック ライマー K	ハイボン 30 マスチック ライマー K	ニッペジンキー 8000 メタルグレー
上塗り 2 級	—	ファイン Si	ファイン 中塗 DP	ハイボン 30 マスチック ライマー K	ハイボン 30 マスチック ライマー K	ニッペジンキー 8000 メタルグレー
上塗り 3 級	—	ハイボン 50 上塗	ハイボン 30 マスチック 中塗 K 又は ハイボン 30 マスチック 中塗	ハイボン 30 マスチック ライマー K	ハイボン 30 マスチック ライマー K	ニッペジンキー 8000 メタルグレー
	—	ハイボン 50 ファイン	ハイボン 30 ファイン 中塗 又は ハイボン 30 ファイン 中塗 U	ハイボン 30 マスチック ライマー K	ハイボン 30 マスチック ライマー K	ニッペジンキー 8000 メタルグレー

### 18. 7. 3 亜鉛めっき鋼面耐候性塗料塗り

亜鉛めっき鋼面耐候性塗料塗りは、表18. 7. 2による。

表18. 7. 2 亜鉛めっき鋼面耐候性塗料塗り

工 程	塗料その他			商 品 名	塗付け量 (kg/m <sup>2</sup> )	
	規格番号	規格名称	種類 又は 等級			
素地ごしらえ		表18. 2. 3によるA種 ただし鋼製建具等はB種				
1	下塗り	JASS 18 M-109	変性エポキシ樹脂プライマー(変性エポキシ樹脂プライマーおよび弱溶剤変性エポキシ樹脂プライマー)	—	ハイボン20 ファイン 塗料用シナー A 0~10%	0.14
2	研磨紙すり	研磨紙P 120~220				
3	中塗り	JIS K 5659	鋼構造物用耐候性塗料	中塗り塗料	ファイン中塗 DP 塗料用シナー A または SA 0~10%	0.14
4	上塗り	JIS K 5659	鋼構造物用耐候性塗料	上塗り塗料等級は特記による。	1級の場合(ふっ素系) ファイン4Fセラミック 塗料用シナー A 0~10%	0.10
					2級の場合(シリコン系) ファインシリコンフレッシュ 塗料用シナー A 0~10%	
					3級の場合(ポリウレタン系) ファインウレタンU100 塗料用シナー A 5~15%	

- (注) 1. 工程4まで製作工場にて行う場合は、工程2は省略する。  
 2. 鋼製建具等の下塗りの工法は、18. 3. 3 (e) による。  
 3. JASS 18 M-109 は、日本建築学会材料規格材料規格である。

● 上記以外に下記商品も使用可能です。

●上塗り

- デュフロン100フレッシュ (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 1級)
- デュフロン100ファイン (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 1級)
- デュフロン100ニューファイン (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 1級)
- ファインSi (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 2級)
- ハイボン50上塗 (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 3級)
- ハイボン50ファイン (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 3級)

●中塗り

- デュフロン100ファイン中塗 (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
- デュフロン100ファイン中塗U (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
- デュフロン100中塗K (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
- デュフロン100中塗 (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
- ハイボン30ファイン中塗 (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
- ハイボン30マステック中塗K (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
- ハイボン30マステック中塗 (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
- ハイボン30ファイン中塗U (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)

●下塗り

- ハイボン20デクロ (JASS 18 M-109 変性エポキシ樹脂プライマー)
- ハイボンファインプライマーII (JASS 18 M-109 変性エポキシ樹脂プライマー)

- ハイボン20ZN II (新) (溶融亜鉛めっき面用エポキシ樹脂下塗り塗料 JASS 18 M-109)

組合せ例

工程 仕上種類	種別	上塗り	中塗り	下塗り
上塗り1級	—	デュロン100フレッシュ	デュロン100中塗K又は デュロン100中塗	ハイボン20デカ又は ハイボン20ZN II (新)
		デュロン100ファイン又は デュロン100ニューファイン	デュロン100ファイン中塗又は デュロン100ファイン中塗U	ハイボン20ファイン ハイボンファインプライマー-II又は ハイボン20ZN II (新)
上塗り2級	—	ファインSi	ファイン中塗DP	ハイボン20ファイン又は ハイボンファインプライマー-II・ハイボン 20ZN II (新)
上塗り3級	—	ハイボン50上塗	ハイボン30マッシュク中塗K 又はハイボン30マッシュク中塗	ハイボン20デカ又は ハイボン20ZN II (新)
		ハイボン50ファイン	ハイボン30ファイン中塗又は ハイボン30ファイン中塗U	ハイボン20ファイン ハイボンファインプライマー-II又は ハイボン20ZN II (新)

18. 7. 4 コンクリート面及び押出成形セメント板面耐候性塗料塗り

コンクリート面及び押出成形セメント板面耐候性塗料塗りは、表18. 7. 3により、種別は特記による。

表18. 7. 3 コンクリート及び押出成形セメント板面耐候性塗料塗り

工 程	種別			塗料その他			商 品 名	塗付け量 (kg/m <sup>2</sup> )
	A 種	B 種	C 種	規格 番号	規格名称	種類		
素地 ごしらえ	○(注)			表18. 2. 6によるA種				
1 下塗り	○	○	○	JASS 18 M-201	反応形合成樹脂シーラーおよび弱溶剤系反応形合成樹脂シーラー	—	ニッペ° ファイン浸透シーラー (透明) 無希釈	0.08
2 中塗り	○	—	—	JASS 18 M-405	常温乾燥形ふっ素樹脂塗料用中塗り(常温乾燥形ふっ素樹脂塗料中塗りおよび弱溶剤系常温乾燥形ふっ素樹脂塗料用中塗り)	—	ファイン 4F セラミック 塗料用シーラー A 0~10%	0.14
	—	○	—	JASS 18 M-404	アクリルシリコン樹脂塗料用中塗り(アクリルシリコン樹脂塗料用中塗りおよび弱溶剤系アクリルシリコン樹脂塗料用中塗り)	—	ニッペ° ファインシリコンフレッシュ 塗料用シーラー A 0~10%	
	—	—	○	JASS 18 M-403	2液形ポリウレタンエナメル用中塗り(2液形ポリウレタンエナメル用中塗りおよび弱溶剤系2液形ポリウレタンエナメル用中塗り)	—	ニッペ° ファインウレタン U100 塗料用シーラー A 5~10%	
3 上塗り	○	—	—	JIS K 5658	建築用耐候性上塗り塗料	主要原料 ふっ素樹脂(1級)	ファイン 4F セラミック 塗料用シーラー A 0~10%	0.10
	—	○	—			主要原料 シリコン樹脂(2級)	ニッペ° ファインシリコンフレッシュ 塗料用シーラー A 0~10%	
	—	—	○			主要原料 ポリウレタン樹脂(3級)	ニッペ° ファインウレタン U100 塗料用シーラー A 5~15%	

(注) 1. 素地ごしらえの種別は、塗料その他の欄による。

2. JASS 18 M-201、M-403、M-404 及び M-405 は、日本建築学会材料規格である。

- 上記以外に下記商品も使用可能です。
  - デュフロン4 F II フレッシュ (JIS K 5658 建築用耐候性上塗り塗料 1 級 相当) (社内試験で該当規格の性能を満たしています。) (中塗りには「デュフロン4 F II 中塗」 (JASS 18 M-405) をご使用ください。)
  - ニッパ° ファイン Si (JIS K 5658 建築用耐候性上塗り塗料 2 級 相当) (社内試験で該当規格の性能を満たしています。) (JASS 18 M-404 弱溶剤系アクリルシリコン樹脂塗料用中塗り)
  - ニッパ° 浸透性シーラー (新) (JASS 18 M-201 反応形合成樹脂シーラー)

組合せ例

工程 仕上種類	種別	上塗り	中塗り	下塗り
ふっ素樹脂 (1 級)	A 種	デュフロン4F II フレッシュ	デュフロン4F II 中塗	ニッパ° 浸透性シーラー (新)
シリコン系 (2 級)	B 種	ニッパ° ファイン Si	ニッパ° ファイン Si	ニッパ° ファイン浸透シーラー (透明)

## 8節 つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP-G)

### 18.8.1 適用範囲

この節は、コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面、その他ボード面等並びに屋内の木部、鉄鋼面及び亜鉛めっき鋼面のつや有合成樹脂エマルジョンペイント塗りに適用する。

### 18.8.2 コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面、その他ボード面等 つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り

コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面、その他ボード面等つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗りは表18.8.1により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。  
なお、天井面等の見上げ部分は、工程3を省略する。

表18.8.1 コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面、その他ボード面等  
つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り

工 程	種別		塗料その他		商 品 名	塗付け量 (kg/m <sup>2</sup> )
	A種	B種	規格番号	規格名称		
素地ごしらえ	○(注)1		18.2.5、18.2.6又は18.2.7による。			
1 下塗り	○	○	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョンシーラー	ニッパ <sup>®</sup> 水性透明シーラー 水道水100%	0.07
2 中塗り (1回目)	○	○	JIS K 5660	つや有合成樹脂エマルジョンペイント	オーデコートGIC 水道水0~10%	0.10
3 研磨紙ざり	○	—	研磨紙P220~240			
4 中塗り (2回目)	○	—	JIS K 5660	つや有合成樹脂エマルジョンペイント	オーデコートGIC 水道水0~10%	0.10
5 上塗り	○	○	JIS K 5660	つや有合成樹脂エマルジョンペイント	オーデコートGIC 水道水0~10%	0.10

(注) 1. 素地ごしらえの種別は、塗料その他の欄による。  
2. 押出成形セメント板面の素地ごしらえは、表18.2.6によるB種とする。

\* ドアノブまわりなど頻繁に手で触れる箇所には、プレートを貼るなどの処置が必要になる場合がありますのでご注意ください。

●JIS K5663 合成樹脂エマルジョンシーラーでは下記商品も使用可能です。

- ・ ニッパ<sup>®</sup> 水性ホワイトシーラー
- ・ ニッパ<sup>®</sup> 水性カチオンシーラー (透明・ホワイト)
- ・ ニッパ<sup>®</sup> 水性シミ止めシーラーII

●JIS K5660 つや有合成樹脂エマルジョンペイントでは下記商品も使用可能です。

- ・ オーデグロス
- ・ ニッパ<sup>®</sup> 水性ケンエースグロス

### 18.8.3 木部つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り

屋内の木部つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗りは、表18.8.2による。ただし、多孔質広葉樹の場合を除く。

表18.8.2 木部つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り

工 程	塗料その他			商 品 名	塗付量 (kg/m <sup>2</sup> )
	規格番号	規格名称	種類		
素地ごしらえ	18.2.2による。				
1 下塗り	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョン シーラー	—	※ニッパ° 水性ウッドベースU 水道水 0～10%	0.07
2 パテかい	JIS K 5669	合成樹脂エマルジョン パテ	耐水形	Hi ビニレックス耐水パテ (仕上)	—
3 研磨紙ざり	研磨紙P 120～220				
4 中塗り	JIS K 5660	つや有合成樹脂 エマルジョンペイント	—	オーデコートGエコ 水道水 0～10%	0.10
5 上塗り	JIS K 5660	つや有合成樹脂 エマルジョンペイント	—	オーデコートGエコ 水道水 0～10%	0.10

(注) 1. 下塗りは、塗料を素地によくなじませるように塗る。木口部分は、特に丁寧に行う。  
2. 下塗りに用いる合成樹脂エマルジョンシーラーは、上塗り塗料製造所の指定する水性塗料とする。

- \* ドアノブまわりなど頻繁に手で触れる箇所には、プレートを貼るなどの処置が必要になる場合がありますのでご注意ください。
- \* Hi ビニレックス耐水パテ (仕上) は、屋外及び水回りには使用しないでください。

●JIS K 5660 つや有合成樹脂エマルジョンペイントでは下記商品も使用可能です。

- ・ オーデグロス
- ・ ニッパ° 水性ケンエースグロス

※「ニッパ° 水性ウッドベースU」は、JIS K 5663 合成樹脂エマルジョンシーラーの相当品です。(社内試験で該当の性能を満たしております。)

### 18.8.4 鉄鋼面つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り

屋内の鉄鋼面つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗りは表18.8.3により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。

表18.8.3 鉄鋼面つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り

工 程	種別		塗料その他		商 品 名	塗付量 (kg/m <sup>2</sup> )
	A種	B種	規格番号	規格名称		
錆止め塗料塗り	○(注)		18.3.3(a)による。			
1 中塗り (1回目)	○	○	JIS K 5660	つや有合成樹脂エマルジョンペイント	オーデグロス 水道水0~10%	0.10
2 研磨紙 ずり	○	—	研磨紙P220~240			
3 中塗り (2回目)	○	—	JIS K 5660	つや有合成樹脂エマルジョンペイント	オーデグロス 水道水0~10%	0.10
4 上塗り	○	○	JIS K 5660	つや有合成樹脂エマルジョンペイント	オーデグロス 水道水0~10%	0.10

(注) 錆止め塗料塗りの種別は、塗料その他の欄による。

※ドアノブのまわりなど頻繁に手で触れる箇所には、プレートを貼るなどの処置が必要になる場合がありますのでご注意ください。

●JIS K5660 つや有合成樹脂エマルジョンペイントでは下記商品も使用可能です。

- ・ オーデグロス
- ・ ニッパ 水性ケンエースグロス

### 18.8.5 亜鉛めっき鋼面つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り

屋内の亜鉛めっき鋼面つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗りは表18.8.4による。

表18.8.4 亜鉛めっき鋼面つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り

工 程	塗料その他		商 品 名	塗付量 (kg/m <sup>2</sup> )
	規格番号	規格名称		
錆止め塗料塗り	18.3.3(c)による。			
1 中塗り	JIS K 5660	つや有合成樹脂エマルジョンペイント	オーデコートGエコ 水道水0~10%	0.10
2 上塗り	JIS K 5660	つや有合成樹脂エマルジョンペイント	オーデコートGエコ 水道水0~10%	0.10

※ドアノブのまわりなど頻繁に手で触れる箇所には、プレートを貼るなどの処置が必要になる場合がありますのでご注意ください。

●JIS K 5660 つや有合成樹脂エマルジョンペイントでは下記商品も使用可能です。

- ・ オーデグロス
- ・ ニッパ 水性ケンエースグロス

## 9節 合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP)

### 18.9.1 適用範囲

この節は、コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面、その他ボード面等の合成樹脂エマルジョンペイント塗りに適用する。

### 18.9.2 合成樹脂エマルジョンペイント塗り

合成樹脂エマルジョンペイント塗りは表18.9.1により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。なお、天井面等の見上げ部分は、工程3を省略する。

表18.9.1 合成樹脂エマルジョンペイント塗り

工 程	種別		塗料その他			商 品 名	塗付け量 (kg/m <sup>2</sup> )
	A種	B種	規格番号	規格名称	種類		
素地ごしらえ	○(注)1		18.2.5、18.2.6又は18.2.7による。				
1 下塗り	○	○	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョン シーラー	—	ニッパ <sup>®</sup> 水性透明シーラー 水道水100%	0.07
2 中塗り (1回目)	○	○	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョン ペイント	1種	エコフラット70 水道水5~15%	0.10
3 研磨紙ざり	○	—	研磨紙P220~240				
4 中塗り (2回目)	○	—	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョン ペイント	1種	エコフラット70 水道水5~15%	0.10
5 上塗り	○	○	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョン ペイント	1種	エコフラット70 水道水5~15%	0.10

(注) 1. 素地ごしらえの種別は、塗料その他の欄による。

2. 押出成形セメント板面の素地ごしらえは、表18.2.6によるB種とする。

●JIS K5663 合成樹脂エマルジョンシーラーでは下記商品も使用可能です。

- ・ ニッパ<sup>®</sup> 水性ホワイトシーラー
- ・ ニッパ<sup>®</sup> 水性カチオンシーラー (透明・ホワイト)
- ・ ニッパ<sup>®</sup> 水性シミ止めシーラーII

● JIS K5663 合成樹脂エマルジョンペイント 1種では下記商品も使用可能です。

- ・ Hi ビニレックスエコ70
- ・ ニッパ<sup>®</sup> 水性ケンエース
- ・ ニッパ<sup>®</sup> 水性ケンエースグロス (3分艶有り・5分艶有り)
- ・ オーデコートGエコ (艶消し・3分艶有り・5分艶有り)
- ・ エコフラット100 (JIS K 5663 合成樹脂エマルジョンペイント 1種 相当) (社内試験で該当規格の性能を満たしています。)
- ・ ニッパ<sup>®</sup> オーデファインアクト (JIS K 5663 合成樹脂エマルジョンペイント 1種 相当) (社内試験で該当規格の性能を満たしています。)
- ・ 清潔 WALL (JIS K 5663 合成樹脂エマルジョンペイント 1種 相当) (社内試験で該当規格の性能を満たしています。)\*下塗りには「清潔 WALL 下塗」を塗装してください。
- ・ Hi ビニフレッシュセラ (JIS K 5663 合成樹脂エマルジョンペイント 1種 相当 汚染除去性内装用シリコンエマルジョン系塗料) (社内試験で該当規格の性能を満たしています。)

## 10節 合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り (EP-T)

### 18.10.1 適用範囲

この節は、屋内のコンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面等の合成樹脂エマルジョン模様塗料塗りに適用する。

### 18.10.2 コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面等合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り

コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面等合成樹脂エマルジョン模様塗料塗りは表18.10.1により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。

表18.10.1 コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面等合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り

工 程	種別		塗料その他			商 品 名	塗付け量 (kg/m <sup>2</sup> )
	A種	B種 ※2	規格番号	規格名称	種類		
素地ごしらえ	○(注)1		18.2.5、18.2.6又は18.2.7による。				
1 下塗り	○	○	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョンシーラー	—	—	0.07
2 中塗り	○	○	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョン ペイント	1種	—	0.10
3 上塗り	○	○	JIS K 5668	合成樹脂エマルジョン 模様塗料	2種	—	0.60
4 仕上げ 塗り	○	—	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョン ペイント	1種	—	0.14

(注) 1. 素地ごしらえの種別は、塗料その他の欄による。

2. 押出成形セメント板面の素地ごしらえは、表18.2.6によるB種とする。

## 11 節 ウレタン樹脂ワニス (UC)

### 18. 11. 1 適用範囲

この節は、木部のウレタン樹脂ワニス塗りに適用する。

### 18. 11. 2 ウレタン樹脂ワニス塗り

ウレタン樹脂ワニス塗りは表 18. 11. 1 により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。

表 18. 11. 1 ウレタン樹脂ワニス塗り

工 程	種別		塗料その他		商 品 名	塗付け量 (kg/m <sup>2</sup> )	
	A種	B種	規格番号	規格名称		1 液形	2 液形
	素地ごしらえ	○(注)1		18. 2. 2による。			
1 下塗り	○	○	JASS 18 M-301	1液形油変性 <sup>ホ</sup> リウレタン ワニス	—	0.05	—
			JASS 18 M-502	2液形 <sup>ホ</sup> リウレタンワニス	ニッペ <sup>°</sup> ファインウレタンU100 木部用クリヤー 塗料用シンナーA 5~10%	—	0.06
2 研磨紙ざり	○	○	研磨紙P220~240				
3 中塗り	○	—	JASS 18 M-301	1液形油変性 <sup>ホ</sup> リウレタン ワニス	—	0.05	—
			JASS 18 M-502	2液形 <sup>ホ</sup> リウレタンワニス	ニッペ <sup>°</sup> ファインウレタンU100 木部用クリヤー 塗料用シンナーA 5~10%	—	0.06
4 研磨紙ざり	○	—	研磨紙P240~320				
5 上塗り	○	○	JASS 18 M-301	1液形油変性 <sup>ホ</sup> リウレタン ワニス	—	0.05	—
			JASS 18 M-502	2液形 <sup>ホ</sup> リウレタンワニス	ニッペ <sup>°</sup> ファインウレタンU100 木部用クリヤー 塗料用シンナーA 5~10%	—	0.06

- (注) 1. 素地ごしらえの種別は、塗料その他の欄による。  
 2. 一般木部及びフローリングは、1液形とする。  
 3. JASS 18 M-301 及びM-502 は、日本建築学会材料規格である。

※ ニッペ<sup>°</sup>ファインウレタンU100 木部用クリヤーは床・廊下・美術工芸品・床柱・カウンター・陳列棚などには使用しないでください。室内塗装される場合は乾燥が遅くなりますので、注意してご使用ください。

12節 木部ラッカーエナメル塗り (LE)

18. 12. 1 適用範囲

この節は、木部のラッカーエナメル塗りに適用する。

18. 12. 2 ラッカーエナメル塗り

ラッカーエナメル塗りは表18. 12. 1により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。

表18. 12. 1 ラッカーエナメル塗り

工 程	種別		塗料その他			商 品 名	塗付け量 (kg/m <sup>2</sup> )
	A種	B種	規格番号	規格名称	種類		
素地ごしらえ	○(注)		18. 2. 2による。				
1 下塗り	○	○	JIS K 5533	ラッカー系シーラー	ウッド シーラー	—	0.10
2 研磨紙ずり	○	○	研磨紙P220～240				
3 中塗り (1回目)	○	○	JIS K 5535	ラッカー系下地塗料	ラッカー サーフェサ ー	—	0.14
4 中塗り (2回目)	○	○	JIS K 5535	ラッカー系下地塗料	ラッカー サーフェサ ー	—	0.14
5 研磨紙ずり	○	○	研磨紙P320～400				
6 上塗り (1回目)	○	○	JIS K 5531	ニトロセルロースラッカー	ラッカー エナメル	—	0.08
7 研磨紙ずり	○	○	研磨紙P320～400				
8 上塗り (2回目)	○	○	JIS K 5531	ニトロセルロースラッカー	ラッカー エナメル	—	0.08
9 上塗り (3回目)	○	—	JIS K 5531	ニトロセルロースラッカー	ラッカー エナメル	—	0.08

(注) 素地ごしらえの種別は、塗料その他の欄による。

### 13節 オイルステイン塗り (OS)

#### 18. 13. 1 適用範囲

この節は、木部のオイルステイン塗りに適用する。

#### 18. 13. 2 オイルステイン塗り

オイルステイン塗りは、表18. 13. 1による。

表18. 13. 1 オイルステイン塗り

工 程	塗料その他	商 品 名	塗付け量 (kg/m <sup>2</sup> )
素地ごしらえ	汚れ及び付着力を除去する。		
1 1回目塗り	オイルステイン	—	0.03
2 ふき取り	全面白木綿布片でふき取る。		
3 2回目塗り	オイルステイン	—	0.03
4 ふき取り	全面白木綿布片でふき取る		

## 14節 木材保護塗料塗り (WP)

### 18.14.1 適用範囲

この節は、木部の木材保護塗料塗りに適用する。

### 18.14.2 木材保護塗料塗り

木材保護塗料塗りは、表18.14.1により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。

表18.14.1 木材保護塗料塗り

工 程	種別		塗料その他		商 品 名	塗付け量 (kg/m <sup>2</sup> )
	A 種	B 種	規格番号	規格名称		
素地ごしらえ	○ (注)1		18.2.2による。			
1 下塗り	○	○	JASS 18 M-307	木材保護塗料	—	0.06
2 上塗り (1回目)	○	○	JASS 18 M-307	木材保護塗料	—	0.06
3 上塗り (2回目)	○	—	JASS 18 M-307	木材保護塗料	—	0.04

- (注) 1. 素地ごしらえの種別は、塗料その他の欄による。  
2. JASS 18 M-307 は、日本建築学会材料規格である。